

<102回 3.8 世界女性の日記念、企画討論会>

ベーシック・インカムと女性

ー 性平等増進の可能性 ー

2010年3月8日（月曜日）夕方7時30分
ソウル女性プラザ 4階 視聴覚室

発表：キム・ミジョン（民主労総 政策研究院 副院長）
ボ・ファ（社会党 政策議員）
討論：チェ・ジスギョン（韓国性暴行相談所 会員）
キム・ヒョヌ（進歩新党政策委員）
チュ・ウンファイ（民主労働党 政策研究員）

主管：ベーシック・インカムネットワーク、社会党
主催：社会党 ベーシック・インカム議員会、民主労働党 女性議員会、
民主労総 政策研究院、全国女性農民会総連盟、進歩新党 性政治議員会、進歩新党 女性議員会

後援：毎日労働ニュース、女性主義ジャーナル イルーダ、プロメテウス
日本語翻訳：キム・サンイン¹

<発表文> 個人に支給されるベーシック・インカムと女性
キム・ミジョン（民主労総 政策研究院 副院長）

<発表文> パラダイムの転換としてベーシック・インカムと女性に関する詩論
ボ・ファ（社会党 政策議員）

<討論文> 2010年3.8 ”ベーシック・インカムと女性”
チェ・ジスギョン（韓国性暴行相談所 会員）

¹ valval8282@gmail.com

<討論文>ベーシック・インカムに対する“プラス”の議論に対する期待
キム・ヒョヌ（進歩新党政策委員）

<討論文> ベーシック・インカムと女性
チュ・ウンフイ（民主労働党 政策研究員、家庭学 博士）

<参考資料>忘れられた女性たち：ベーシック・インカムのためのシングルマザーたちの忘れられた闘争（原題 - missing women: the forgotten struggle of single mothers for basic income）
山森 亮（toru yamamori）

< 発表文 >

支給されるベーシック・インカムと女性

2010. 3. 4 キム・ミジョン（民主労総 政策研究院 副院長）

1。 現況

女性の経済活動の参加率は50%前後で、経済活動に参加する女性賃金労働者の65%が非正規労働者である。性別賃金不平等は平均的に女性は男性の62.3%程度の賃金を、女性非正規労働者は男性正規労働者の39.1%の賃金をもらっており、女性非正規労働者の中には、最低賃金に満たっていない月平均賃金をもらう人が4人の中に一人の割合で存在している。（キム・ユソン，2009）。イ・ジュヒ（2010）の韓国労働研究院、労働パネル9次資料（2006年）の分析結果によると、4大保険への加入率の男女正規、非正規職の中で最も低い加入率を見せており、一番多くの保護を必要とするグループが、女性非正規職である（表0）2009年、全体世帯の中で女性が世帯主である世帯は374万9000世帯いで、全体世帯の22.2%を示している。その割合は1980年14.7%、2000年18.5%、2009年22.2%に増え続ける傾向であるが、彼らに’生計扶養者’としての賃金が支給されていないことは男女賃金格差でも確認できる。

<表0> 性別雇用形態別4大保険加入率（9次（2006年）労働パネル資料）

四大保険	男性		女性		全体	
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規

国民年金	65.8 (1,389)	40.3 (205)	56.2 (703)	31.5 (135)	62.2 (2,092)	36.3 (340)
健康保険	77.3 (1,631)	45.4 (231)	68.2 (854)	32.9 (141)	73.9 (2,485)	39.7 (372)
雇用保険	71.8 (1,515)	46.0 (234)	64.0 (854)	34.3 (147)	68.9 (2,316)	40.7 (372)
産災保険	71.4 (1,508)	46.4 (236)	60.9 (763)	33.2 (142)	67.5 (2,271)	40.3 (378)

2. ベーシック・インカムとは

ベーシック・インカムは社会構成員全体に審査順序や、どのような義務事項も伴わず、所得を支給する制度である。すでに国際的なネットワークでベーシック・インカムに対する論議が進行されており、韓国では2002年を前後にして論議が拡張されている。また、ナミビアとアラスカなどで¹はすでに施行されており、ブラジルでは部分的に施行していて徐々に拡大している。またドイツ、日本などの国でも活発な議論が行われている。

現在韓国で論議されているベーシック・インカムのモデル²は以下の通りである。このモデルは民主労総の政策研究院（2010）で発刊した¹「1等だけ記憶する汚い世の中を靴がえろ」の一部で、カン・ナムフンの「ベーシック・インカムの経済効果」で説明したことを再編集した

1) 支給額

<表1> ベーシック・インカム必要財源（単位：100兆ウオン）

(全国)	推計人口	2009年 1人当り支給額(万ウオン)
計	48,746,693	
0-19歳	11,530,732	300
必要財源	35	
20-39歳	15,199,846	400
必要財源	61	
40-54歳	12,104,839	500
必要財源	61	
55-64歳	4,718,566	600
必要財源	28	
65歳以上	5,192,710	600
必要財源	31	
必要ベーシック・インカム合計	215	
無償教育	15	
無償医療	20	
合計予算(兆ウオン)	250	

ベーシック・インカム支給額は<表1>の通りである。ベーシック・インカム支給額は年齢による違いがあるだけで幼い時には年間400万ウオンをもらい、55歳以上になると年間600万ウオンをもらう。ベーシック・インカムは無償教育・無償医療を前提としている。ここで無

² (2010) ベーシック・インカムの経済的効果

償教育・無償医療に必要な予算25兆ウオンが既存教育費予算と国民健康保険に追加される部分である。既存の年金制度加入者のために過渡期を設定する。過渡期には、既存の年金受給者の方々には、自分が寄与した部分に対してはベーシック・インカム以外の追加支給を認めるなど、私学年金・公務員年金・軍人年金加入者の方々の場合には年金とベーシック・インカムとの差は積立された年金基金から、追加的に支払うなどの方法を模索する。

2) 財源

ベーシック・インカムの財源の設け方には色々な方法がある。消費税や付加価値税を中心に財源を設ける方法もよく主張される方法である。カン・ナムン、グァク・ノワン、イ・スボン（2009）は所得税と付加価値税などの不労所得に対する課税を通じて、ベーシック・インカムを設ける方法を提示したことがある。ここでは<表2>のように所得税と付加価値税を除いて、土地税と環境税など不労所得に対する課税を通じて財源を設ける方法を提示する。

<表 2> 2009年基ベーシック・インカム財源（単位：兆ウオン）

区分	政府予算	ベーシック・インカム財源
* 予算	217.5	253.73
1. 直接税引き上げによるベーシック・インカム財源		5
* 直接税合計	87.3	
所得税	42.9	
(総合所得税) + ベーシック・インカム税(新設)	8.2	
(不動産譲渡所得税)	9.1	
(勤労所得税) + ベーシック・インカム税(新設)	17.3	
法人税	39.3	
相続贈与税	3.3	5
総合不動産税	1.8	
2. 付加価値税	48.5	
3. (交通エネルギー環境税を統一)	11.16	29
4. 年金及び現金支給型社会保障費	73.2	73.2
* 2009 国民年金納入+年基金運用収益	45	
* 2009 基礎老令年金支給額	2.5	
* 2009 軍人年金支給額	2	
* 2009 公務員年金支給額	7	
* 2009 私学年金支給額	1.2	
* 2009 基礎生活保障支給額	5.5	
* 2009 雇用保険料納入額及び運用収益	10	
5. 証券譲渡所得税の導入		35
6. 利子所得税の源泉徴収		12.7
7. 配当所得税の源泉徴収		5.54
8. 土地税		44.7
9. 地下経済の税源捕捉の拡大による追加租税		35
10. 国防費	28.64	8.59
		253.73

ベーシック・インカム制度施行のためには租税変革が必要である。上の表は次のような原則の下で租税変革をすることを前提したものである。

1. あらゆる所得に対して課税する。この原則によって証券譲渡所得税と土地税を新設する。
2. 勤労所得税, 法人税、付加価値税に対しては現在税率を維持する。
3. 不労所得（利子、配当、証券譲渡所得など）に対しては30%の税率で課税する。

4. 環境関連税金を環境税として単一化して、現在GNPの1.1%水準である環境税を4%水準（約40兆ウオン）に3%程度増加させる。ヨーロッパの環境先進国の中では、環境税がすでにGNPの5%水準に到達した国もあり、これから各国の環境税率の急激な増加が予想される。
5. 財産税、総合不動産税（総不税）などは、すべて土地税に統合し単一化させ、地価総額に対しては3%の税率に課税する。（地価総額2000兆ウオンから、60兆ウオンの税入が予想される。既存の財産税と譲渡所得税などの不動産関連の税収入を除く）これから土地税率をさらに引き上げる代わりに勤労所得税など、勤労の結果に対する租税をその分減免する。
6. 地下経済の規模は250兆ウオン程度に推定されている。一定金額（たとえば10万ウオン）電子取引の義務化などを立法を通じて徹底に課税する。

250兆ウオンの財源は大きく感じられるが、国民全体で見れば、ベーシック・インカムのため税金をもっと払うようになるわけではない。国民全体で見れば追加に払った税金はベーシック・インカムとして払い戻ってくるためである。ベーシック・インカムは税金と支出を再分配する効果だけがあり、税金を追加的に取り立てることではない。

地下経済の税源を捕捉を難しく思う必要はない。現代のIT技術の発展によりいくらでも可能である。一定金額以上の取引を電子取引として義務づけて、電子取引に対して手数料を免除し（増加された租税収入で銀行とカード社に補助）、電子取引の金額の一定分の所得税減免を通じてほぼ完璧な税源捕捉が可能である。問題は租税当局の意志である。

環境税強化も人流の持続可能な発展のために必須的なことである。環境税の強化は公害を減らし資源を節約するためにも必須的な手段である。このような環境税強化を通じて集められた財源をベーシック・インカムの財源として使うことで、環境を保存し、所得を公平に分配する二重の効果が発生する。

よく投機のような不労所得に対する課税を通じてベーシック・インカムの財源を設けるとした時、課税をすると、投機もなくなるためベーシック・インカムも不可能になれるのではないのでしょうか？という疑問があるかもしれない。だが、不労所得に対する30%ぐらいの課税は先進国の水準であるため、特別な問題ではない。また、土地税と環境税は課税によりなくなる。土地税は経済の成長と共に増加し、環境税も生態危機がひどくなるにつれて、もっと増加する。土地税と環境税はベーシック・インカムの財政安定性をために、とっても重要な役割が果たされている。

このような財源を設けるためには租税変革が必要である。脱税を無くさなければならない。また、税金を払っていなかった不労所得者たちは、追加的に税金を払わなければならない。このような租税変革に対して国民全体の同意をもらうことは簡単でないはずである。だが、透明で公平な増税はいつかは到達しなければならない目標である。ベーシック・インカムを通じてこのような目標にもう一歩近付いたら非常に望ましいことであろう。ベーシック・インカムは実際にこのような租税変革を容易にさせる。租税変革を通じて設けられた税金でベーシック・インカムを実現させれば、同意する国民を増やせることができるためである。

3. 性平等とベーシック・インカム

条件なしにあらゆる個人に支払われる一定金額のベーシック・インカム³は性平等な社会を作るためにどのような寄与ができるのだろうか。本当にベーシック・インカムは女性が公平な機会と平等な結果を獲得するために適切な機会を提供することができるのだろうか？長い間根深く位置つけた性別労働分業を克服するために、ベーシック・インカムはどのような役割果たすことができるのだろうか？社会、職場、家庭で、ひたすら性別が違うという理由で差別される女性にベーシック・インカムはどのような影響を及ぼすことができるのだろうか？

ベーシック・インカムが性平等に及ぼす影響を話す時に、注目されることはベーシック・インカムが個人に支払われることである。現在韓国で施行される多くの社会保障制度が“家族を基準”にした収入比例方式で保障していることとは根本的に異なる。現在、韓国の公的年金は所得がない人は‘寄与’することができないため受給者になれない。彼らは‘家族’という単位で縛られて所得がある人の‘扶養家族’になる。所得がない人のためには、扶養家族分として +@（とても少ない金額）を受給者に支給する方式である。だが、ベーシック・インカムは多数が家族を構成しいても、各個人に支払われて、一人暮らしであっても、収入があるかどうかに関係なしに条件なしに支給される。これがベーシック・インカムが性平等に寄与が期待される重要な要素である。

4. 非正規女性労働者とベーシック・インカム

Elgarte (2006) は社会で女性が持つ特別な地位の主要要素は“性別労働分業”だと主張している。Zelleke (2008) も性平等に到達するための一番最初の段階は“労働の性別分業”を弱体化させることだと強調している。性別労働分業は家庭だけではなく、職場で任せられる仕事、社会的認識など、あらゆるところで根深く位置つけている。“男なのにこんなことも出来ないの？”、“こんなことは女がやるべきでしょう。”など生活の中に溶け込まれている。このような性別分業は男性は‘生計扶養者’として、女性を‘再生産を担当する者’と思い込ませる。そのため女性が労働市場に進出しても、彼女たちは生計扶養者としてではなく、家計に補助的な助けをする者として扱い、低い賃金、大したことでない仕事に追い込まれている。

仕事をして、しなくても支給されるベーシック・インカムが非正規女性労働者たちにどの

³ カン・グナムフン、グァック・ノハン、リ・スボン(2009) ‘即刻的で無条件的なベーシック・インカムのために’ではベーシック・インカムの支給額は年齢による差があるだけで、幼い頃には年間 400万ウォンをもらい、55歳以上からは年間 800万ウォン、65歳以上からは年間900万ウォンをもらう。

ような影響を及ぼすかに対して見てみよう。韓国の女性労働者たちは、だいたい低賃金、長時間労働をしている。彼女たちにベーシック・インカムとして40~50万ウォンが毎月支給されたら、どのような現状が起こるのだろうか。

1) 性別労働分業の固着化？

一見思われることが性別労働分業の固着化である。仕事をして、しなくてもベーシック・インカムが支給されると低賃金、長時間労働をやっている女性たちは交通費や、食費、だけではなく、子供がある場合は保育費まで心配しなければならないためベーシック・インカムが保障されると、返って仕事を辞めて家で直接子供を育てることを選択する可能性が高いのである。このように、家庭にとどまるようになり自然に家庭内のケア労働を専担するようになり、性別労働分業はもっと固まり、いつか労働市場に復帰したい時、再び性別労働分業に根拠した職場で働けるようになる。そのため、家事と養育を専担しない女性さえ、男性たちと同等な経歴者または仕事に劣情的な人として認めなくなり、'性別労働分業は固着化'されることである。

2) これ以上貧困の恐怖なしに後退（離脱または拒絶）が可能である！

女性にベーシック・インカムが保障され、そのために低賃金、長時間労働の職場で離脱し家庭にとどまるようになると、その後、低賃金・長時間のその劣悪な職場の労働需要はどうやって充足されるのだろうか。ベーシック・インカムを根拠に女性たちが仕事を辞めると、同じくベーシック・インカムをもらう男性たちがその場をやりくれるのだろうか？仕事をして、しなくても支払われるベーシック・インカムは長時間・低賃金の下で苦しんでいる女性たちが劣悪な労働条件に対抗して”私、辞めます！”と叫ぶことができる根拠となれる。すなわち、女性たちはこれ以上、貧困の恐怖のせいでやっていた劣悪な仕事を強要されなくなる。

万が一、ベーシック・インカムのせいで女性たちが労働市場から離れるという論理によると、彼女たちがやめた職場に新しい労働力が必要となり、普遍的なベーシック・インカム体系の下では過去の低賃金・長時間労働の条件の下では、これ以上労働者を誘引することができなくなる。このため、ベーシック・インカムが導入されると、女性であっても、男性であっても、あらゆる個人に、そして社会にダイナミックに作動するベーシック・インカムを想像できる。ベク・スンホ（2010）によると、正規職と非正規職グループに対する貧困減少効果は現行の社会保障制度によっては貧困率が9%程度減少することに比べて、ベーシック・インカムによっては貧困率が71%~73%まで減少すると分析された。非正規職の貧困率減少幅はさらに大きく表れた。現行の制度により非正規職の貧困率は12%程度減少されることに比べて、ベーシック・インカムによっては貧困率が少なくとも73%、多くは79%近く減少できると分析された。

3) 性別労働分業克服の道！

女性の労働市場進入だけでは、その間の歴史的経験が言うてくれるように、性別労働分業を克服することは難しい。むしろ、その間女性の仕事だと思われてきたケア労働を性別の役割の区別なしにやって行く必要がある。すなわち、誰でも労働者と介護者の中で一つだけを選択することを強要されなくなるベーシック・インカムの導入こそが性別労働分業の克服を可能にさせる。ベーシック・インカムは賃金雇用の世界で、そしてケア労働の領域で男性と女性のその間の関係を変化させる一番可能性ある在分配機能を持っている。これがどうやって可能であるかに対して見てみよう。

5. 労働時間短縮と家事分担、そして社会的仕事

1) 労働時間短縮と家事労働分担

韓国は世界最長の労働時間を誇る。多くの男性が’生計扶養者としての役割を果たすために一日中、時には夜間、徹夜、休日勤務をやっている。彼らはヘトヘトになって帰ってくる。女性も同じである。それだけではなく女性労働者たちは同じく長時間労働をやりながらも、男性たちと’性’が違う理由で家に帰ってから家事や育児までやらなければならない。このような長時間労働は仕事と生活の均衡 (life and work balance) を崩す。長時間労働を家父長制的な’男性生計扶養者’論理が合って女性の三重苦は避けないことになるだろう。ベーシック・インカムが導入されてから、女性であっても、男性であっても毎月一定金額が安定的に支給されたら、実質労働時間の短縮ができるようになる。実質労働時間が短縮されたら仕事と家庭との均衡を持つ生き方への可能性がもっと高まると思われる。

まず、ベーシック・インカム導入と労働時間の短縮のおかげで職場から解放された、すなわち長時間労働から実質的に離れた男性たちが自身の時間を持つようになり、養育と家事を女性たちに任せることができなくなる。自分の名義にお金が増える女性たちか自分の声を家庭の中で大きく出すことが出来たら、女性と男性、男性と女性の家庭内での役割分担に明らかな変化があると予想される。

Almaz Zelleke (2008) はFraser⁴の言葉を引用して実質的な性平等はケア労働のように主に女性の労働だと思はれることを再分配することから行われると主張している。すなわち、いくら女性たちが経済活動に参加しても、ケア労働を女性と男性が分けてやっていない限り、経済活動に参加した女性たちの仕事（主に家事労働と養育）を他の女性たち（社会的にもっと劣悪な条件に追い込まれている、たとえば移住女性労働者など）がする可能性が高まり、性平等の実現はもっと難しくなるということだ。そのため女性と男性が養育、家事労働を分けてする条件を作る、多様な選択の幅を広げるベーシック・インカムこそが他のどの社会保障

⁴ Nancy Fraser, "After the Family Wage: A Postindustrial Thought Experiment," in *Justice Interruptus: Critical Reflections on the "Postsocialist" Condition* (Routledge, 1997), pp. 41-66.

制度よりも性平等を行うために積極的な福祉制度である。

女性の主な仕事だと思われる養育、家事労働を男性と女性が一緒にすることにより性平等を実現できると主張しているNancy Fraserの主張をもっと詳しく紹介し彼女の主張に対する理解を助ようとする。

Fraserは市民意識の二つのモデルが論争中だと言及している。一つは普遍的な生計扶養者モデルで、もう一つはケア労働者同格モデルである。普遍的な生計扶養者モデルは原則的に女性の雇用増進を通じた性平等に到達することである。彼らのフルタイムジョブ (full time job) を妨害するケア労働から女性を自由にするためにサービスを支援することが要求される。⁵

ケア提供者同格モデルは原則的に非公式的であるケア労働労働に対する支援を通じて性平等に到達することである。すなわち、ケア労働が他の賃金労働と同等に思われるべきであるし、補償されるべきである。このモデルは性別労働分業を問題だと思わない。問題は所得の不公平とケア労働に対する尊重がないことである。このモデルは主に非公式的ケア労働を支援し性平等を増進させることを目標としている。

Fraserは二つのモデルとも男性中心的だと批判している。この二つのモデルは全部どんな仕事も男性の仕事で、どんな仕事も女性の仕事であるかに対する問題から離れることができない。あらゆる人は、すなわち男性であっても、女性であっても二つの仕事に共に参加すべきであるし、この二つの責任を構造的に支援すべきである。ベーシック・インカムは賃金労働、ケア、休暇など個人に与えられた時間に対する個人の選択の幅を広げる。誰でも収益を得るために”労働者”または”ケア提供者”の間で選択する必要がない。そのため、ベーシック・インカムがケアの提供と有給雇用の世界に対して、男性と女性両方の関係の再分配を実現させるために一番大きな可能性を持っている。ということがFraserの主張の要旨である。

2) ベーシック・インカムだけが重要であろうか？

ベーシック・インカムとは仕事と家庭の均衡 (life and work balance) を成すために寄与するだけではなく多様な社会的活動を可能にする。文化活動、地域共同体、または、もっと幅広い社会活動も長時間労働から解放された、女性と男性が社会的な次元で自分の有意義な活動を拡張できる。ロビースターショルツ (2007) によると、偏狭な視点に閉じ込められて’家族と職場に取り組むことが資本主義的、家父長制的に強要された存在方式であることに気づき、彼を批判しようと考えていなければ、フェミニズム理論は私たちに特別に役に立たない。そのため視線をより広く持つべきであることに同意する。

⁵ 家長両立支援制度が脈絡を一緒にしているが、女性が養育・家事労働を支援するために保育施設など各種支援を拡大・強化する一方に、配偶子の産休(産婦が出産をした場合、配偶子(男性)が休暇を取り面倒を見る制度)を“無給”にして実質的な使用を難しくしている。すなわち労働市場に参加する女性に各種サービスを提供し女性が労働市場に参加を容易にするため支援をしているが、男性と養育と家事を分けてすることで、実質的な性平等を遂げるための支援には興味がない。

もちろん、意味のある社会活動ができる環境を作るためには、ベーシック・インカムの導入だけでは充分でない。公共保育施設がより拡充されないと、労働時間の短縮でできた時間を、追加にできた収入を’自分’の子供、家族たちの世話をすることだけに使われるかも知れない。ベーシック・インカムは導入できたが、公共保育の拡充、無償医療、無償教育、ケア労働の社会化などが制度化され実現されないと、ベーシック・インカムの効果は削減されるはずである。ベーシック・インカムの導入と公共性強化を交換することではなく、共に行うことにより人々の生活に大きな変化を齎すことができる。この時点でのベーシック・インカムの導入は特別に女性たちに大きな影響を及ぼすことができる。多くのベーシック・インカムの主張者たちが話すようにベーシック・インカムの導入と一緒に公共財はもっと拡充されるべきである。

3) 働きたい人に、仕事ができるようにしろ！

ベーシック・インカムの導入と実質労働時間の短縮より、仕事と家庭の均衡（life and work balance）、社会的活動も可能であるが、また仕事が増えることも可能である。ベーシック・インカムの導入で労働者の必要・充足により労働時間が短縮されると、使用者は従来の労働時間を確保するためにもっと多くの労働者を雇うしかない。このような仕事が“男性のみに局限されるはず”という考えは、あまりにも保守的である。

また、ケア労働の社会化や公共財の拡充により、社会サービスに当て嵌まる仕事が増えるしかない。このような仕事の賃金や労働条件がベーシック・インカムの導入のおかげでまともな仕事になれることは前で述べたように、一定金額の収入を確保した人々に劣悪な労働条件と低賃金の仕事は選択するしかない”たった一つの選択肢”ではないためである。そのためベーシック・インカムの導入、実質労働時間の短縮は女性にまともな仕事を与える機会を提供する。

6. 経済的自由を！

Elgarte (2006) も女性たちが無給労働とケア労働のほとんどをやっていて、有給労働をやっている時さえ、いつも少ない金額と不安定な状況に追い込まれているため、彼女たちが老いた時や、そして、シングルマザー⁶になった時にほとんどが貧困になることがそんなに驚くべきことではないと述べている。

女性たちの経済的劣悪さは言うこともないほど深刻な状況で、所得比例方式の社会保障制度は数えないぐらいの死角地帯を持っている。その中でも女性はひどい死角地帯に置かれてい

⁶ 一人で子育てをするお母さん

る。例えば非婚母⁷のことであつたら、正確な統計すらないという事実から非婚母たちの現況を駁説的に説明している。時々、社会問題として指摘されるだけで、彼女たちを社会の真の一員として認めて彼女たちの困難を解決し、分担するための観点と態度には接近していない。社会的に非可視化されているシングルマザーは自分自身の立場のため、もてなす苦しみをそのまま一人で受け継いだり、施恵の対象として思われる。

彼女たちに何も問わず、問い詰めずに一定額のベーシック・インカムが毎月支給されれば彼女たちの生活はどのように変わるのだろうか。彼女たちの子供の生活はどのように変わるのだろうか。また、所得のない女性たち、すなわち扶養家族として認識されあらゆる無給の家事労働、ケア労働をやっている女性個人に支払われるベーシック・インカムはどのような役割を果たすことができるのだろうか。経済的自立の厳しさのためにDVに苦しみながらも、穏当な処遇を受けられなくても、自立（離婚）できない数多くの女性たちにベーシック・インカムはどのような力になれるのだろうか。

だけではなく、ベーシック・インカムは劣悪な労働条件と低賃金、長時間労働をやっている女性労働者たちにも肯定的な影響を与えることができるはずである。韓国で数多くの非正規の女性労働者たちはまともな仕事を選択する余地がないため、非自発的に劣悪な労働条件と低賃金の条件の下で働いている。そのような仕事さえしないと生計を立つことができないためである。だが、ベーシック・インカムが導入され一定金額の収入が持続的に保障されれば彼女たちの選択の幅を広げることができる。

Elgarte (2006) は不安定で低い賃金の仕事をしながら二重苦に苦しんでいる女性たちにベーシック・インカムは働く間にはもっと高いまたは安定的な収入を保障し、年を取ってからは、意味ある年金を保障することができる」と強調している。このような女性の多くは二重負担者を代表するだけではなく、収入の安定が絶対的に必要な人々であるためだ。すなはち、彼女たちの収入は不安定で自立的でなく、年金がないまたは他の社会保障に対する権限がない、ほとんどのシングルマザーとパートタイムの既婚女性が含まれている。また、elgarteはpahl, ott, robeysnの言葉を借りて、家庭内で有給労働をしている女性たちの影響力の方が無給の女性たちより大きいと言及し、教育と職業なしに保障される収入は家庭での主婦たちの影響力を大きくすることができる」と主張した。すなはち、ベーシック・インカムをもらう女性たちは自分自身の声を高めることができるということだ。

ベーシック・インカムは劣悪な条件のと低い賃金の下で働いている女性たちにまたは、無給の家事労働を専担している彼女たちの声を高めることができる、選択の幅を広げる機会を提供する積極的な福祉制度だと言える。

⁷ 未婚母の意味は ‘まだ’ 結婚をしない状態を指し、結婚を前提で使われる。だが非婚母は結婚を前提にせず、ただその状況のみを表現する

韓国では“シングルマザー “よりは主に” 未婚母 “と表記している。

(役者注)

7. “施惠’ ’ではなくて、権利を！

女性たちのこのような経済的状況は彼女たちを面倒を見てあげなければならない”対象”と思わせる。シングルマザー、低賃金長時間労働の非正規女性労働者たち、所得がないため社会保険に加入できない女性たち、DVに苦しんでいる女性たち、家事労働者や介護労働者など賃金をもらう労働者であるが労働者として認められない非公式部門の女性労働者たち。彼女たちは現在の社会保障体制の下で社会や周りからの助けをもらう必要がある人として思われる。この中の多くが死角地帯に追い込まれたり、’施惠の対象’になり、’特殊な状況’に置かれた人になる。普遍的福祉であるベーシック・インカムシクはこのような女性たちを’施惠の対象’、または特殊な状況として区分しない。もっと大事なところは、そのような区分をするために資産調査という名目で人々の生活をのぞかない。既存の社会福祉制度は各種扶助を含み資産調査という名目で社会的に偏見のある視線で、様々な名前と立場を一つ一つ粉類してから手伝うかどうかを選択する。そのような名前と粉類は正しくない。だけではなく、当事者の利害と要求を反映せずに、一方的な基準を突き付ける。また当事者の資産だけを調査するだけではなく、親、子供、兄弟たちの資産まで調査し平価する。実質的にその人々たちとどのような関係を結んで生活しているかに対しても施惠の対象になろうとする当事者がやなければならない。例えば書類上の親はあるが、互いに交流がないため実質的な助けをもらえない状況であつたら既存の社会保障恵沢をもらうためには、親、子供、兄弟の間の親密さ(?)まで一つ一つ説明しなければならない。

ベーシック・インカムシクはこのような資産調査なしに、皆に与えられる。そのため烙印もなく、自分の私生活を一つ一つ説明する必要もない。あらゆる人々に同じく支払われるベーシック・インカムシクであるが或る人々にはもっと有用な、そしてもっと切実な収入源になれるはずである。普遍的な福祉制度だけがこのようなことを可能にする。一番必要などころに施惠ではなくて、権利としてベーシック・インカムシクはどっとも大きな意味がある。

< 発表文 >

パラダイムの転換としての ベーシック・インカムと女性に関する詩論

8

ボファ (社会党 政策議員)
Flypan80@naver.com

(0).

被害生存者相談をしていたある日、電話一通かかって来た。大学に通っているある女子学生からの電話で、“実父から約10年ぐらいの間に性暴行の被害を受けていて抜け出す方法を探している”という事であった。切ない気持ちで一所懸命に調べたが、現在、性暴行被害生存者が避難できるシェルターはあまりにも足りない状態であった。結局、現在としては助けることができないと、伝えるしかなかった。親族性暴行や、性暴行被害以後、親族に2次被害⁹を受けた場合、生存者はもっと持続的な被害に露出される。これは極甚なトラウマにつながる重要な要素中の一つである。そうであるため、性暴力、家庭暴力被害生存者たちの住居と生計問題は彼女たちの命をかけるほどに至急な問題である。

⁸ この文書は 2009年 12月イファ女大女性学科修士課程キム・ボファ、ジョン・インヨン、博士課程のチェ・ヒョンミが共同研究した“女性主義の観点で眺めた基本所得に関する研究”を修正、補完したものである。引用を認めてくれたジョン・インヨン、チェ・ヒョンミとこの文の始めから最後まで助言し、支持してくれた女性学科のチェジ・スンギョンに感謝する。

⁹ 性暴力2次被害とは、1次的に直接物理的、言語的暴力を加えなかったが、性暴力被害以後、被害に関する責任を被害者に回すなど被害者に心理的加害を加えることを意味する。

ベーシック・インカムは審査と労働要求なしに、あらゆる個人に、個別的に、無条件的に支給される‘無条件的ベーシック・インカム’を指すことである。社会構成員全体に審査手続きや義務事項を度伴わなわずに所得を支給する制度である。(BIEN: Basic Income Earth Network, <http://www.basicincome.org/bien/aboutbasicincome.html>) 性暴力被害生存者にベーシック・インカムを支給すればどうなるのだろうか。この文書はこのような現実に対する問題意識から始まる。

現在の状況で構造的に‘位置付けられた’経済的、社会的少数者たち - 経済的な問題のせいで家庭内暴力から逃げられない女性たち、娘が夫から性暴行被害を受けた事実を気づいても、他の代案がないため黙るしかないお母さんたち、墮胎手術をするお金がないため、非婚母になるまたは、赤んぼうを入養させるしかない女性たち¹⁰、10代売春女性たち、職場内の性暴行問題を申し立てたという理由で解雇された女性たち、または自ら退社するしかない女性たち、そして障害女性たち - の問題をどのような方法で解決することができるのだろうか。また誰が解決してくれるのか。国家が、男性たちが、他の誰かが女性に合う政策を作ってくれるまでに待たなければならないのか？

資本主義的市場価値体系と家父長的権威構造がかみ合っている現時代で、私たちに一番似合う掛け声は何であろうか。“反家父長制！反性暴力！反資本主義！”を叫んだところで、具体的な代案がないこのような巨大談論たちは意味がない。そうであったら”ベーシック・インカムは女性にも良い制度“という主張をただ聞くことよりは、私たちがその政策と理論を発展させて”女性に良い制度“と主張できない理由はない。それが現実を変化させる可能性がある物だったら、女性に合う‘具体的な想像’を始めて見ることに、ためらう理由も必要もない。

たまに、あらゆる個人に条件なしに支給する“ベーシック・インカム”はたびたび非現実的、ユートピア的だと批判される。基本的に現在存在しないという意味の非存在性を扱うことが代案社会理論だとすれば、“ユートピア的”という批判を避ける方法はない。しかし逆説的にすべての代案社会理論はユートピア的になるしかない。¹¹現在のベーシック・インカム論議をフェミニズム的視覚¹²で改めて談論化し、その意味に対する支持と論争を始めたら、貧困と暴力に脆弱な女性と社会的弱者たちに、そして資本主義的市場価値に抵抗し新しい代案理論と運動を作っていくための爆発的な可能性を明らかに持っている。

この文書はベーシック・インカムの国家別事例を通じて肯定的効果を見通し、それからベーシック・インカムに対するフェミニズム認識論的な接近を試みる。また、ベーシック・イン

¹⁰ 2010年現在、社会的イシューになっている墮胎と係わる論争はこの文では論外にする

¹¹ イ・サンホン, 2007, 「労働と福祉: 普遍的権利としての基本所得保障」, キム・スヘン, シン・ジョンワン, 『資本主義以後の新しい社会』, ソウル大学校出版部, p. 295

¹² この文書ではフェミニズムは不平等な社会的位置とセックス(sex, 生物学的性)によって女性たちが直面する差別に関心を持って女性に対する差別を減らして乗り越えるために社会的、経済的、政治的、または文化的秩序の変化を要求する一連の理論と実践で定義する。ゼイン・ブリドモン作, イパク・ヘギョン訳, 2002, 『フェミニズム』, 以後

カムが暴力、仕事-家族と女性の関係にどのような影響を及ぼすことができるかについて考察する。このような過程を通じて現在の市場主義的交換価値パラダイムからケアパラダイムへの転換の能性を論議することで、ベーシック・インカムと女性に対する論議を始める出発点としての意義を持つ文書である。

1. 国家別事例と韓国での論議過程

ベーシック・インカムは本当に実現可能であろうか？ この章では具体的な事例としてナミビアのベーシック・インカム試験プロジェクト、ブラジルの市民ベーシック・インカム制度、アメリカのアラスカの永久基金配当を見直し、韓国での論議過程を叙述することでベーシック・インカムに対する理解を助けることを目的とする。

1) ベーシック・インカム 試験プロジェクト

ナミビアは 2008~9年ベーシック・インカム試験プロジェクトを進行した国で、2009年 4月、試験プロジェクト施行から1年が経った時点で中間評価報告書が発表された。制限的でもナミビアのオミタラ地域は 2008年1月からベーシック・インカムを導入した。60歳未満の住人たちは2008年から毎月100ナミビアドル(ウォンで約 19,100ウォン¹³)を ‘ベーシック・インカム’ としてもらい、そのため過去に食糧を物乞いをする行為が完全に消滅でき、地域民の尊厳性だけではなく責任感も大きく向上できたと評価されている。¹⁴

ベーシック・インカム試験プロジェクト中間報告書では、何よりもベーシック・インカムの支給により貧困問題が急激に改善できた。また、食糧貧困線にあった人々の割合が2007年 11月72%で2008年11月16%に大幅で減ったと報告している。非雇用率も同期間に60%から45%にけっこう減ったのみならず、ベーシック・インカムが施行されれば“人々が働かなくなるはず”という憂慮を反駁するように、経済人口がむしろ増えたことが確認できる。だけでなく報告書は“ベーシック・インカムを含んで地域住民の1人当りの所得がほぼ二倍増加、犯罪件数も目立つように下落、また、教育、保健医療、性平等の次元でも非常に肯定的な結果を齎すことができた”と報告している。¹⁵現在オミタラ地域に限っているナミビアのベーシック・インカムは全国的な拡大を準備している。

2) ブラジルの市民基本所得制度(Bolsa Familia)

ブラジルはすでにベーシック・インカム導入のための段階として ‘ボルサ・パミルリア(Bolsa Familia)’ プログラムを施行している。‘ボルサ・パミルリア’ 制度は“市民基本

¹³ 日本円で約1578円(100円:1210ウォン) (訳者注)

¹⁴ イ・スボン、カン・ナムフン、グァク・ノワン、2009、「皆にベーシック・インカムを!」、社会対案フォーラム第3回シンポジウム資料集、『基本所得制度の社会対案的可能性』、社会対案フォーラム、pp.9~72

¹⁵ BIEN, 2009, 「BIENの手短な歴史」、BIEN: Basic Income Earth Network 資料室

所得”導入のための初段階になる制度で2009年現在1人当り月所得が140リアル(1ドルは 1.77リアル)未満のあらゆる住居を対象に年齢によって差等支給している。2006年 1,120万住居が‘ボルサ・パミルリア’プログラムの恵沢を受けている。¹⁶

また、2004年ルーラ大統領の署名で效力を持つようになった、市民基本所得法律は下院の家族社会保障委員会ではもう通過され、2009年12月現在財務租税委員会の意見書を待っている。2004年“市民基本所得法律”が最終的に通過できた以降、施行に至るまで多くの時間がかかったが、世界の歴史上最初に全国的水準でベーシック・インカム制度の導入を目標にした国で施行を目前にしている点で世界的に注目されている。40リアル(2009年7月現在約25,000ウォン¹⁷)を2010年からブラジル国民全体に毎月ベーシック・インカムとして支給する時、年間では1人当り480リアル、約1億9千万人のブラジル人口に代入した時、総額は約900億リアルでブラジルGDPの5%程度である。このような財政的な負担で法律が通過できた以後にも実行はできなかったが、最終的には国民全体を対象とすることを目指して2010年から漸進的に行うために準備中である。市民所得の財源は2006年8月上院で通過された‘市民基本資金’設置に関する法律に根拠にして、連邦所有会社株式の10%、自然資源採掘に対する使用料の50%、連邦政府資産貸し賃の50%、連邦租税等で基金を用意する予定である。¹⁸

3) アラスカ州の永久基金配当

アラスカの‘永久基金配当’は石油という資源から出る莫大な収益を通じて行われる特殊な状況で始まった。アラスカ州知事を歴任したジェイ・モンドが石油から得られた収益一部を積立することにより、富が蓄積されることを保障する基金設立を提案し、この提案により1976年州憲法改訂を通じて石油を含んだ州所有の自然資源の販売から得られら収益の最小25%を積立するアラスカ州永久基金(APF)が設置された。1982年永久基金配当が施行された初年度には1人当たり1,000ドルの配当を支給した以後、配当金が少しずつ増え1995年には990ドルであった。そして2008年の配当金は最大3,269ドルで歴代最高水準を記録した。2009年7月現在、永久基金の資産運用現況を見れば、国内外株が38%、債権が22%、不動産が12%で最大のパーセントを占めている。また、全体永久基金の市場価値は320億7,140ドルに至る。また永久基金配当は経済的平等の効果として、2002年以前10年間の統計を通じてアラスカの富裕な世帯20%所得が7%増加したことに比べて、貧しい世帯20%の平均所得の場合28%が増加できたことから確認できる。¹⁹

4) 韓国でのベーシック・インカム論議過程

韓国の場合、2009年以後学界を中心にベーシック・インカムに対する論議が活発に行われて

¹⁶ チェ・グァンウン、2009a、「ベーシック・インカムモデルの理解と韓国での導入可能性研究」、ハンシン大学国際平和人権大学院平和研究専攻修士学位論文、pp. 31~35

¹⁷ 日本円で約2066円(100円:1210ウォン) (訳者注)

¹⁸ , 2009b, “ヨーロッパから南米、アジア、アフリカに拡散する基本所得”, 『民衆の音』, 2009. 11. 06位論文, pp. 31~35

¹⁹ チェ・グァンウン、2009b

る。2010年1月ベーシック・インカム国際学術大会を通じて、ベーシック・インカムに対する関心を確認し、ベーシック・インカムが導入する場合、解決できる多くの社会/経済的問題に対する研究が行われている。

カン・ナムフン(2009a, 2009bはベーシック・インカムを紹介し、政治運動としてコムーネ注意への可能性を主張した。), グアック・ノワンは(2009a, 2009b, 2009c)パン・パレイスと他の国々のベーシック・インカム論議を紹介しながら、労働解放としての可能性を探索した。キム・キョウソンは(2009)脱貧困政策を批判的に検討しベーシック・インカム導入のための政策と現実可能性を叙述した。チェ・カンウンは(2009a, 2009b, 2009c)経済的排除克服の核心対案にベーシック・インカムを主張しBIENとベーシック・インカムの歴史及びベーシック・インカム導入の必要性などを研究した事がある。

さらに具体的な論議過程としては、先にベーシック・インカムと社会的持分給与²⁰に関する論争で、社会的持分給与は機会の平等と資産再分配を追求する点で有意味であるが、ベーシック・インカムが結果の平等と所得保障を追求する点でベーシック・インカムを選好する立場²¹が存在する。民主労総政策研究員でも2010年2月、韓国のベーシック・インカム得導入戦略を扱った研究プロジェクトの最初の産物として「あらゆるの国民に即刻ベーシック・インカムを支給しろ!」という研究報告書を刊行した。この報告書に構想された「韓国型ベーシック・インカムモデル」(2009年基準)によると、39歳以下年間400万ウォン(1人当り)、40-54歳600万ウォン、55-64歳800万ウォン、65才以上900万ウォン、5年以上居住した外国人550万ウォンの手当をあらゆる構成員に分けることを提示している。²²既存の社会保障制度を廃止しベーシック・インカムを導入するとした時実行過程で起こると予想されるさまざまな社会の問題²³に対する積極的な検討が必要で、またベーシック・インカムだけが代案であるかに対する問題申し立ても論争の地点にある。しかし、肯定的な意味でベーシック・インカムを積極的に検討する立場ではベーシック・インカムの財政的可能性と制度がもたらす効果、政治的可能性に対する細密な分析を出している。

カン・ナムフン、グアック・ノワンは韓国社会でベーシック・インカムを施行するのが可能であると主張する。19歳以下に年間300万ウォン、39歳以下に年間400万ウォン、54歳以下年間500万ウォン、55歳以上年間600万ウォンを支給する場合、ベーシック・インカム支給に必要な総金額は215兆ウォンになる。もう支出されている年金など、各種現金支給型社会保障費で70兆ウォンを充當し、株譲渡説新設35兆ウォン、利子及び配当税率引き上げ18兆ウォン、土地税統合25兆ウォン、不労所得捕捉20兆ウォン、環境税統合10兆ウォン、付加価

²⁰ 持分給与制度は成人期を始める時期に社会的持分を獲得することで教育機会獲得が可能になって、大金が必要となる機会に対する可能性を高めて、すべての人々に等しいスタートラインを提供する機会の平等を増進させて資産分配ができるようにする。社会的持分給与で制度が修正された形態ではあるが、イギリスでは児童信託基金制度(2006)で、アメリカとカナダでは個人発達口座制度(1991)で導入された。ソ・ジョンヒ、チョ・グァンジャ。2008「新しい分配制度に対する構想-ベーシック・インカムと社会的持分給与論争を中心に」、韓国社会保障学会第24冊第1号

²¹ ソ・ジョンヒ、チョ・グァンジャ 2008、

²² キム・ジミ。2009、「失業対策に発想の転換が必要だ」、慶南新聞『慶南持論』、2009.08.17

²³ ズア・ヘギョン、2009、「ベーシック・インカム制討論文進歩新党未来想像研究所主催基本所得制月例フォーラム。2009.06.12 / 1。社会福祉サービス市場統制及び拡大戦略、排除されたベーシック・インカム制。2。現存する社会保障制度に対する考慮不在。3。ベーシック・インカム制の持続可能性。4。女性と障害者など就業脆弱階層に対する差別的効果。5。主体形成の問題

値税税率印象 35兆ウォン、ベーシック・インカム税新設 30兆ウォン、その他 7兆ウォンを用意することで、250兆ウォン程度の財源を設けることができるということだ。このような租税体系は必要財源の 75%を不労所得であてて残り25%を勤労所得から充當することで、全体の90%程度の人々はベーシック・インカム導入により出すお金より、もっと多いお金をもらうことができるという主張だ。ベーシック・インカムは国民の大部分が明らかな受惠者だと感じることができる税金であるため、極少数不労所得を除いてあらゆる階層に恵沢が当たるため、財政的に可能で、政治的にも可能である。²⁴

だけではなく、女性にピントを合わせたベーシック・インカムに関する研究としては、ソ・ゾングフィ、チオ・クァンジア(2009)は生涯週期による多様な福祉政策が必要であり、社会的持分給与とベーシック・インカムを比較した時ベーシック・インカムは結果の平等と所得保障に優先順位を与える点で肯定的に評価された。特に、ソン・グウンミ(2003)は社会的貧困にジェンダー観点を付与し、非正規労働者、特に多数を占めしている女性非正規職労働者に対する社会的セーフティー・ネットとしてベーシック・インカムを主張し、社会福祉の価値と政治的実践としてのベーシック・インカムを主張した。また、キム・ミジョン(2010)は女性の経済的自由と権利、仕事-家族の均衡 (life and work balance) のためのベーシック・インカムの有意味さを敘述した。

この以外の本格的なフェミニストによるベーシック・インカム論議は海外で進行されている。Julia Magdalena Elgarte(2006, 2008)はベーシック・インカムの導入により経済的セーフティー・ネットを駆逐し女性たちの地位を向上させることができる。また、性別分業と女性に対する暴力問題を解決させる可能性に対して主張した。また、性別分業の下でベーシック・インカムが及ぼす否定的な影響に対しても考察した。Alisa Mckay(2005)は女性の社会保障政策としてベーシック・インカムを主張し、Carole Pateman(2010)はフェミニズムと女性の民主化のためのベーシック・インカムを主張した。

以上で、ナミビア、アラスカ、ブラジルの事例を通じてベーシック・インカムの結果として階級間経済的差の緩和、犯罪率の減少、性平等が成り立つ可能性に対して見通した。それから、ベーシック・インカムの理解を助けるために韓国での論議過程を手短に説明した。次の章では、“いくつかの人々がベーシック・インカムに対して否定的に思う本当理由はどこにあるのか” また、そのためどのような認識の転換が必要であるかに対して見通す。

2. どのような立場で見ているのか？

ベーシック・インカムを受け入れる時一番障害物になることは ‘実現可能であるか?’ に対することだ。このような人々にあふれるぐらいの表とグラフ、シミュレーションを言ってあげると、‘そうであるかも知らないが、韓国ではできないだろう’ と聞き返す。このような繰り返す過程を通じて分かることは、人々が本当に知りたいことは、実現可能かどうかに対する問題ではなく、‘私がおのうに税金を払うことができるか?’ あるいは反対に ‘私が

²⁴ 2009a, 「あらゆる国民にベーシック・インカムを保障することができる」, 『福祉動向』, 2009年 5月号, pp. 40~42

働かずにお金をもらうことができるか?」、または「どうして私が一所懸命働いて稼いだお金を分けなければならないの?」などの考え方を転換できない認識の固定観念に阻まれている。すなわち、私たちの認識自体がベーシック・インカムを思考するには、あまりにも個人主義的で、近代的²⁵で、一緒に生きて行く周辺人の話を聞くことに慣れないのみならず、聞くとしてもそれを分けることに対して集団的に忘却した状態に至っているからである。

私たちの視野は無意識的に主類談論、主類の視覚と一致するため、どの視覚と立場で世界を眺めるべきであるかに対して、逃しながら生きて行く。マルキシストフェミニストであるハート・サック(N. Hartsock)はブルジョアに対抗するプロレタリアのように女性たちの生活は男性たちの優越性に対して特定の立場を作ることができると思っている。またプロレタリアの立場で見た世界がブルジョアイデオロギーを乗り越えることができることと同じよに女性の経験から見たフェミニスト的立場が私たちに家父長的制度を乗り越える可能性を見せてくれると主張している。²⁶ハーディング(S. Harding)は被支配者たちが声を出し始めれば、支配者たちの思想が客観的でないという事実が分かるようになり、周辺人の生活から思想を出発させる時に男/女皆により少なめに歪曲的であるはずだと言っている。²⁷

このような主張は私たちがベーシック・インカムを思惟する時、既存の認識から脱ぎ出すため、どの立場で思惟すべきかを省みる必要がある。誰が少数者、あるいは女性の事情に興味を持とうとしたのであろうか。女性たちの話の中でも、女性の貧困はもっと見えない形で存在するため簡単に無視されてしまう。例えば、居場所のない男性の問題はホームレスの形で現われる。だが、女性にとって路宿は性暴行危険への露出されることと同じ意味であるために、宿泊を「保障」してくれるチケット喫茶店²⁸、風俗店で働くようになる。しかし産業の空洞化、雇用不安定の増大、非正規職化(女性労働者のレーバークンニオン組職率は1997年19.5%から2005年5.1%で下落)などは女性たちの組織力、交渉力を弱体化させる。このような状況は女性たちの貧困を陰性化させ、見えない、聞こえないことにさせてしまう。²⁹このような状態は、私と関係ない或るかわいそうな女性の話ではなく、私たちも避けられない現実の話であることを憶える必要がある。そのため、今すぐ暴力と貧困に露出された彼女たちの事情を聞くために変化された目と耳を開かなければならない。

しかし“ハーディング”の言葉通りに、いくら被支配者、周辺人だとしても、あらゆることは歪曲可能性があるため、果てしない省察が必要であり、私たちはここで関係に対する省察を要求せられるようになる。

²⁵ これ文書で「近代的」とは、19世紀以後人間を理性的、合理的思考を持った個人として規定し、感情/理性、客体/主体、自然/文明などで二分化、図式化して女性を他者化する一連の考え方を意味する。

²⁶ Nancy C. M. Hartsock, 1987, "The Feminist Standpoint", *Feminism and Methodology*, ed. by Sandra Harding, Indiana Univ. Press, pp. 158~176

²⁷ Harding, Sandra, 1991, "Strong Objectivity and Socially Situated Knowledge", *Whose Science? Whose Knowledge? Thinking from Women's Lives.*, Ithaca, NY: Cornell Univ. Press

²⁸ 「チケット喫茶店」とは店が従業員にお茶を配達販売し時間単位でお金を請求するかたちで、主に性売買を提供する。(訳者注)

²⁹ 2009, 「関係の欠乏としての貧困と学問としての分け合い」, 『第11回ソウル国際女性映画祭国際学術会議資料集』

チョ・スングヨンによると、貧困と社会的排除は関係の欠乏から来る。一方、貧困は親密な関係の欠乏から来たりもする。関心とケアの関係がある状況での貧困は存在しなくなる。しかし、非正規職と雇用不安などは関係の欠乏を引き起こし、そのため直接的に露出された女性たちは個別化されている。関係の不在が貧困を起こす一つの原因だとすれば、貧困からの解放の初段階は貧困な現実と他人に対する関心で出発する。³⁰このような関係の回復はベーシック・インカムが前提とする“認識の変化”を要求する。これはイ・スボンが主張した通りに、人間が作り出す社会のあらゆる結果物は人間の相互作用で作られることで、私と他人の関係が独立的で生産労働をする人だけが富を創造するなどの考えを捨てて、関係に対する考え方を変えすためには関係を結び付く方法から変えさなければならない。³¹

結局、ベーシック・インカムを拒否する核心は‘現実可能性’ではなく周辺人の声を聞かずに関係を結ぶことを‘忘れた’、資本主義的で近代的な価値を内面化したことにある。手を放して、あらゆる問題は資本主義のせいだ！、家父長制のせいだ！と言うより、私自分から支配価値を内面化しているかを見通すべきだ。

3. 女性に対する暴力とベーシック・インカム

ペドリチ(Silvia Federici)は中世の封建社会で農奴たちは家族を持つ権利があり、再生産の手段を持っていて、財産を継ぐことができるなどの自立権があったと描く。また、地と共有地があったため無条件的に領主に従う必要もなく、領主が追い出そうとすれば集団行動で抵抗した。生存が領主にかかっていなかった時は闘争ができ妥協することもできた。しかし以後‘お金’を中心とする契約社会の登場で農夫たちの間にも貧富格差が起り、地がない農夫は自分の労働力を売ること、食いつなぐことができた。この時、中世時代領主の残酷な搾取に対する農奴たちの強い抵抗からの緊張を緩和お媒介として使われたことが女性であった。女性に対する強姦と輪姦を厳しく懲戒せず、目を閉じることで階級の中の葛藤を緩和する結果を作った。³²これは社会的な弱者に暴力を行うことで、社会の秩序を維持した歴史的な例である。そして、その後も魔女狩りという無惨な殺人が功績に教会と国家の認定と支援をもらいながら行われる歴史的恥を残した。女性権力の位置と暴力の連関性は歴史の中で明らかに現れている。

実は中世までさかのぼる必要もない。2007年の韓国の報告書によるとか家庭暴力の場合、一年の家庭内暴力関連相談は13万件で、この中、家庭暴力は6万件である。また、家庭暴力保護施設は全国70個、約5,000余人が入所していて、政府は「保障施設受給者1人当たり給与基準(保健福祉部)」により、1人当たり4,165ウォン³³を支給している。³⁴これを整理すると、家庭内暴力に相談した人の10分の1にもならない人だけがシェルターを利用することができ、

³⁰ チョ・スングヨン、2009

³¹ 2010, 「ベーシック・インカムの普遍性と運動的意味」, 『ベーシック・インカム国際学術大会資料集 I』, pp. 21~45

³² Silvia Federici, 2004, CALIBAN AND WITCH, AUTONOMEDIA

³³ 日本円で約344円(100円:1210ウォン) 訳者注

³⁴ 2009, 『性 認知的予算分析事例(2): 家庭暴力の社会的費用推定』, 韓国女性政策研究員

また、一日にわずか5,000ウォンの補助金で生活をする。だけではなく、全国に60ヶ個ある家庭暴力被害シェルターと一緒に入所する子供が息子である場合には収容できない場合が多く、娘の場合も年齢制限がある場合が多く、また被害女性の財産により入所可否が決まることもある。

性暴行はどうであろう。韓国性暴行相談所で集計した2008年相談統計は総1,430件である。その中に同じ空間に住む、一生会うようになる親族、親/姻戚による性暴行は204件で全体の14.3%にあたる。³⁵しかし保護施設は全国に17個に過ぎない、だけではなく青少年性暴行被害保護施設は青少年シェルターに指定されていないために、登録料、職業教育などを体系的に行うことができない。

基本的な衣食住が解決できていない女性暴力被害者の‘生存’問題に最小限の自律と交渉をすることができたら、彼女たちが暴力に屈服、疎外されることはないだろう。私たちは生存にどれぐらいの自律性を持っているのであろう。自律性を持つことができる生存の夢は不可能であろうか。この時、ベーシック・インカムは現在社会で最小限の生存のための最後の希望ではないだろうか。

私が住むアパートの或る中年夫婦は、一度けんをが始めたら、徹夜で戦い、いつも極甚なDVにつながる。普通DV問題は警察に通告することで解決できる簡単な問題ではない。たびたび翌日の夜明けに家前の公園で裸足で徹夜したおばさんと合う。もし彼女にベーシック・インカムが与えられたら、状況は明らかに違うのではないだろうか。

4. 仕事と家族再構成とベーシック・インカム

ベーシック・インカムの重要な核心中の一つは個人に支給される点にある。既存の社会保障制度は選別的基準で審査が複雑で、雇用保険も正規職を中心に作られていて、大多数が非正規職である女性は福祉においても脆弱な状況に置かれる。そのため、女性に対する古い不平等に作動している‘社会的貧困’³⁶に露出される。キム・ミジョンは現在韓国で施行される多くの社会保障制度が‘家族を基準’にした所得比例方式に保障されることに比べてベーシック・インカムは個人に支給されるため性平等に寄与するようになるはずだと見通している。³⁷すなわち、個人に支給される形態としてベーシック・インカムは、もっと交渉力ある女性の条件を作るために核心的な部分だと思われる。

もう少しラジカルした想像をして見よう。多くの女性が経済的な理由で結婚して、出産後に

³⁵ 韓国性暴力相談所相談チーム、2008、「2008年韓国性暴行相談所相談統計及び相談動向分析」、韓国性暴行相談所

³⁶ 客観的な物質的基準に選定されて、相手貧困は資源の分配がいくら平等に行われたかで貧困を規定する。しかし、二つとも貧困発生の根本的な原因と多次元性を説明できないという限界があって、ここで新貧困概念が登場する。新貧困概念は労働市場柔軟化で貧困発生経路を糾明したが、やはり解決策を提示することができないため、社会的貧困が重視される。社会的貧困は生活の共同体性を破壊し、両極化する市場主義的社会で現われる。貧困で労働市場のみならず生の領域で発生する多層的な危機を説明する。ここで女性に対する根深い不平等による労働市場と日常での剥奪が女性たちに貧困を増大させるということを説明することができるようになる。ソング・ウンミ、2005、「社会的貧困実態と政策評価」、『進歩評論』第25号、2005年秋号、pp37-40

³⁷ キム・ミジョン、2010、「個人に支給されるベーシック・インカムと女性」、毎日労働ニュース。

も経済的な理由のため離婚できない皮肉な状況のしたでベーシック・インカムが支給されたら、特別に男性と結婚すべきである理由がなくなる。ケア労働、家事労働を捧げなければならない男性と結婚する理由がないためだ。ベーシック・インカム導入できたら、現在のような家父長的家族構造の下ではどんどん異性愛結婚を拒否する女性たちが増はずである。異性愛結婚制度に入らずに育児をする女性たちが増えるはずであり、同居、レスビアン、ゲイ、トレンスゼンダカップルたちがもっと自由に多様な共同体を成すようになるはずである。そのようになれば、家父長的異性愛結婚制度に対する人々の強固な根を振るために寄与することができるのではないだろうか？

現在のよう家父長的/異性愛/核家族中心の家族構造の歴史はわずか200年に過ぎない。アメリカは19世紀初期まで、ヨーロッパ北米中産層たちは血縁関係より下人、下宿人、を含む巨大な血統集団を全部家族として定義していた。植民地の開拓時期原住民たちは水平的拡大連帯が重要であったため親族協同体、父系、母系など多様な形式の家族を成した。産業化以後性別分業が強固になったが、労働階級は皆、仕事をしなけりなかつたため、生産単位としての家族概念が強化された。現代の家父長的核家族は進化の結果ではなく多様な視空間の階級たち中で起きた矛盾な返事の結果にすぎない。³⁸

何かを‘認定’し、‘支援’してくれる家族の範囲とは虚構の‘正常家族’（典型的、核家族）³⁹を上程しておいて、それにふさわしい特定な家族たちのみを認める形態であるため非常に狭小である。ここにベーシック・インカムが導入されたら、女性たちは望む形態の共同体を成して情緒的に支持を受け、育児、養育サービスの現物形態と現金形態のベーシック・インカムを与うようになると、仕事-家庭の両立に苦しんでいた女性たちに解放の機会を提供できる。

また、既存の低賃金で働いた女性たちが職場に出勤しなくなると、資本家たちは女性、あるいは男性たちを引っぱるためにもっと良い働く環境を作るしかない。キム・ドルソンは企業と女性の仕事と生活の均衡（life and work balance）両立政策で企業が女性労働力確保するためにどのような家族親和的な政策に対する事例を見せてくれる。韓国のK紡織では女性人力の活用するために雇用主は労働者親和政策を使うしなかつた。例えば、企業は若い女性労働者たちを集めるために学校を設立し彼女たちに教育を受ける機会を提供し、以後結婚した女性を呼ぶために養育施設と子供教育費貸し出しなどの政策を通じて労働力を維持した。これは後期産業化への移行過程で労働力を維持しにくくなる時、雇用主が労働者の福祉を向上させなければならない状態であった韓国社会の事例を提供する。⁴⁰すなわち、Elgarteが主張したとおりベーシック・インカムによる家族と労働市場の変化は望んでいない関係から離れ

³⁸ Coonz, Stephanie, 2006, "Historical perspectives on family", Susan M. Ross, American Families Past And Present: Social Perspectives On Transformations, Rutgers University Press

³⁹ このような家族を自然な社会制度であって不変なことで見ることから出発する。このようなイデオロギーは家族の歴史性を見逃して産業資本主義社会以後に登場した特定階層の家族形態のみを正常だと見る。李財政経済長官, 2003, 『家族の名前』, また一つの文化, p. 83~84. また正常家族イデオロギーは生計扶養者男性と面倒を見、家事労働者である専業主婦女性とお子さんを正常な家族で報告、その以外の共同体は例外的で、問題的なことで心に刻んでおく現社会の主類イデオロギーを言う

⁴⁰ ギム・ドルソン, 2009, 「企業の女性人力活用と仕事-家族政策変化: k紡織事例を中心に」, ガングイスヨックウム, 2009, 『仕事・家族・ジェンダー』, 韓牛を, p. 365~409を言う。

ることができる源泉と、女性の声を強化し、女性の政治的勢力化を拡大できる近刊となる。

41

そうであったら、フェミニストさえベーシック・インカムに反対する最大の理由は何であろうか。

5. ベーシック・インカムは性別分業を固着化する？

ベーシック・インカムは不平等な位置にいる女性たちにもっと公平な関係を維持できるようにする。賃金労働をしなくてもベーシック・インカムを通じて男性により少なめに依存的になり、貧困階級女性は仕事-家族両立の状況のしたで公的領域の労働をしないことを選択することで労働市場の搾取から抜き出すことができる。よって自分の要求に合わせて仕事を選択する可能性も広がる。それは経済的な部分が個人の社会、経済的な地位を上昇させることにも或る態度の影響を及ぼさせることから説得力がある。

しかし、女性がケア労働と育児を選択することにより労働市場から疎外される恐れがあり、性別分業を固着化させる批判も避けられない。例えば、ベルギーで有給休職を許容できた時、それを利用した人の85%が女性で、彼女たちが休職を選択した理由は子育てをためであった。一方、男性たちが有給休職を利用した場合は、主に自分の職場を切り替えすために猶予期間としての時間を持つためであった。⁴²また、ベーシック・インカムを受取る女性が家事労働に自発的に男性よりもっと参加する場合、女性たちは公的な領域で能力が不足、または能力がない存在だと烙印を押される可能性も排除できない。⁴³現在、労働市場での性別職種分離と女性労働に対する低賃金、低熟練化が存在し、就業可否を別にして女性と男性がケア労働と家事労働に同等に参加しない限り、ベーシック・インカムだけでは性別分業が消えにくいことも事実である。

今までのフェミニストたちの論議は ‘ベーシック・インカムは性別分業を固着化させるはずであるため、反対する！’ と ‘そんな恐れはあるが、それでも肯定的な部分が多いため賛成する！’ と意見を集めることが出来る。しかし、ここで注目すべきであるところは “性別分業は固まるはず” という仮定はあらゆる女性と男性が家事/ケア労働を忌避すると前提した考え方である。だけではなくこのような考え方は自ら家事/ケア労働の価値を切下げ、男性の賃金労働の価値を優位にあると認定している事実だ。もう一回思ってみよう。

⁴¹ Julia Magdalena Elgarte, 2006, "Good for women? Advantages and risks of a basic income from a gender perspective", Paper presented at the XI BIEN Congress University of Cape town 2-4 November 2006.

⁴² Robeyns, I. 2000, "Hush money or emancipation fee? A gender analysis of basic income" in L. Groot/ R. van der Veen, Basic income on the agenda. Policy objectives and political chances, Amsterdam, Amsterdam University Press. Julia Magdalena Elgarte, 2006.

⁴³ Robeyns, I. 2001, "Will a basic income do justice to women?" , Analyse und Kritik, 23, pp. 88-105. Julia Magdalena Elgarte, 2006.

女性がケア労働と、家事、養育を担当することは悪いことであるのか？言い換えれば、ベーシック・インカムが性別分業を固着化させる恐れがあると言う批判に対して、パン・パレイス (Van Parijs) は「ベーシック・インカムの導入以後女性が家事/ケア労働を選択することがなぜ問題になるのであるのか」と指摘している。これは女性の家事労働参加が現在のジェンダー固定的な社会の中で現実的な代案であるにも関わらず、既存の論議が家事労働を否定的に評価したことにより結果的に女性の地位を引き下げたのではないかについて指摘している。⁴⁴したがって、ベーシック・インカムの意味が女性に有意味なことに戻って来るためには既存の女性労働に対する価値の再評価が行われるべきであり、そのためにはパラダイムの転換が必要である。

6. パラダイム転換のための媒介体としての ベーシック・インカム

近代公/私の領域が分離けされた。主に公的領域は男性が担当し、私的領域は女性が担当して来た。ここで私的領域とは、私たちが休んで、食べるいわゆる「再生産の領域」である。ここで互いのケア、感情労働が必要となる。既存の労働は経済中心であるため市場外部（特に家族内での労働）での労働を除いた。また、市場は理性中心であるため、ケア労働で要求される感情を概念的に排除して来た。このような理性中心な特性は西欧哲学が見せてくれる男性中心性と連関され、「男性-理性」、「女性-感性」という二分法の中で後者の価値を切り下げる観点から基礎している。性別分業と父系家族の中で女性の仕事は妻として、嫁女として、お母さんとして「職業化」が出来ているにも関わらず、概念化できない「徳目」として強制されてきた。⁴⁵ここで女性たちの労働を概念化し、意味を付けようとし、これはケア労働の価値に対する再構成を要求させる。交換価値が発生する賃金労働だけではなく、非可視的で、価値切下された労働に対する可視化作業が始まる。だけではなく、現在のように高齢化が進行されている状況でケア労働は誰にも絶対的に必要である。だが、その価値は男性中心な労働概念とその価値を内面化した女性自らによりその価値が切り下げられてきた。

その結果、ケア労働は個別家庭や或る国の国内的な問題ではない。一世紀の間、フェミニストたちは公的領域への進出を要求し、その結果、主に女性が担当していたケア労働は市場サービス、たまには第3世界女性、移住女性たちによって満たされるようになった。すなわち、「ケア労働の連鎖」、「再生産労働の国際的分業」を発生させた。女性と国家の間の不平等な関係の中で先進国の富裕な女性は自分の再生産労働業務を移住女性労働者に任せて、女性が発展途上国に残して来た再生産労働は他のもっと貧しい女性が背寄ることになった。言い

⁴⁴ Van Parijs, P. 2001, "Real freedom, the market and the family. A reply to seven critics", *Analyse und Kritik*, 23, pp. 106-131.

⁴⁵ 2000, 「労働概念を新たに表示：感情労働の理解のための時論」, チョ・シュンギョン, 2000, 『労働とフェミニズム』, イファ女子大学出版部

替えれば、移住家事労働者は他の人の子供を育てる一方で自分の子供はまた他の女性に自分の子供を任す構造が発生したのである。⁴⁶

お互いの面倒を見る責任があると信じるとしたら、その責任は何であり、どのように強制させるかに対して決める必要がある。そのため、家族のケア労働を補償する同時に性平等を促進する政策にピントを合わせる必要がある。また、男女ともに市場労働と家族労働を結合させる必要がある。これは男性のケア労働に対する能力と女性の個人的成就のための能力を一緒に開発する新しい労働分業を志向する。男性の家事参加をもっと拡大させるために市場労働時間を縮めれば或る程度で相殺させることもできる。スウェーデンの親は18ヶ月間の有給休暇を取ることができる。また、子供が8歳になるまでに有給休暇を分けて使うこともできる。有給休暇の内1ヶ月はお父さんに配当されてお父さんたちの約50%が実際にお休みを使っている。⁴⁷

このような政策的次元の接近だけではなく、ケアの価値の拡大は私たちが持っている関係から平等の意味を転換することができる。個人を「個別的に分離された者」としてではなく、ケアの依存関係の中にある存在として理解する時、平等概念も修正される。個人に基礎した平等を越えて“関係に基づいた平等”がそれである。これは‘私があげた分の物を返してもらおうと期待する’市場取り引きとは違うことである。すなわち、私が面倒を見てあげた相手が私に何かをくれると期待するのではなく、私が弱い時、私の脆弱性に応じて誰かが手伝ってくれるはずだと思う期待である。これは依存管係の連結網により生活が維持されていることに対する信頼からの期待でもある。⁴⁸

整理すれば、「ベーシック・インカムを導入が性別分業を固着化されるはず」というフェミニストたちの憂慮とは違い、ベーシック・インカムはむしろ“新しいパラダイムの転換”を進めることができる。すなわち、賃金労働中心の価値体系に対抗し、‘労働’の概念自体を問題申し立てるベーシック・インカムはケア労働のように見えなかった女性の労働を談論化させる余地を作る。これ以上、フェミニストたちは女性と男性が‘公的領域’から‘同じくなる’ことをのぞまない。家父長的な公的領域であれば、敢えて歓迎するどのような理由もない。反対に女性が主に担当して来た‘私的領域’が‘神聖な’女性だけの領域だと主張することはもっともない。公/私領域を分ける線を引くことより、その領域を貫通し新しい関係と共同体を形成させる倫理、すなわちケアの倫理を分けようとする事だ。これは人間関係だけでの問題ではない。分離除去する仕事、面のおむつを使う事がお金ももらえない面倒などではなく、「地球とお互いのために良いこと」という認識が形成される時、お互いにケアを取り交わすことができる存在という認識の基礎が形成されながら「ケアパラダイム

⁴⁶ サラザールパレニヤス作、ムン・ヒョンア訳、2009、『世界化の下人たち』、図書出版、ヨ・イヨン、p. 10 この文書で移住女性に対する部分は論外にする。

⁴⁷ ナンシーポルブレ作、ユン・ジャヨン訳、2007、『見えない胸』、図書出版また一つの文化

⁴⁸ 2009、「ケア危機社会の哲学的談論」、『哲学科現実』、2009年冬号、通巻第83号、哲学文化研究所、pp. 145~146

での
転換」が始まるのである。

7. 結論

女性たちのベーシック・インカム運動は最近論議され始めたのではない。代表的な事例としてオランダ労総(FNV)所属の食品分野レーバールユニオンである食品組合(Voedigsbond)は組合員が例外的に女性と時間制労働者たちが高い割合を占めている。この食品組合は1980年代全般にわたってオランダのベーシック・インカム運動で重要な役目を果たしたが、果敢な労働時間短縮と結合した条件ないベーシック・インカムを支持する運動を展開した。だけではなく、イギリスでは1968年から20年間続いたシングルマザーたちの請求人組合運動は今日ベーシック・インカム運動の母胎に記録されている。⁴⁹また、西欧で10年前からベーシック・インカムに対するフェミニストたちの論争が激烈である。このような論争たちはベーシック・インカムがただ貧困緩和の手段としてではなく、現実可能性の側面からも、社会変革の要素として位置づくために重要なことであり、このために絶え間ない政治的想像力が必要であること⁵⁰を反証するどころである。

あらゆる価値を交換価値で商品化する資本主義システムに抵抗することができるベーシック・インカムは‘完全雇用’や‘女性解放’よりずっと‘現実的な’代案としての理論であり、運動である。また、ベーシック・インカム運動は短期的に制度的変化の要求であるのみならず長期的には人間の価値と関係、そして労働に対するパラダイム転換の思考を伴う。すなわち、現在‘お金’に換算される人間の価値に対して再正義し、分け合いの関係を通じて一緒に生きて行くケアのパラダイムに切り替える過程で主な起爆剤にもなるだろう。また、ベーシック・インカム論議は市場/非市場労働、雇用/非雇用、経済/非経済、賃金/不払に対する価値判断の再考を導く。そのため、労働から疎外されない人間の生活を再構成し、価値切下された労働の再評価を成すことができるその始めを用意することができるだろう。

この文書の限界は次のようである。筆者の足りない知識とスムーズではない展開など、この文を含んで女性とベーシック・インカムに関する論議がまだ‘抽象的’レベルにとどまっていることだ。これは実際ベーシック・インカムの導入前後、女性たちの生の質的变化に対していきいきな記録が足りないことに起因する。その間見えなかった、聞こえなかった女性の生活に変化を齎すためには、たびたび統計と数値も必要であるが、多様な脈絡と条件の下で生活している女性たちの実際の声を聞くことが何より重要である。以後ブラジル、ナミビア、アラスカで女性たちの声を盛った研究の発表を期待する。

⁴⁹ 山森亮, 2010, 「Missing Women : The Forgotten Struggle of Single Mother for Basic Income.」, 『基本所得国際学術大会資料集 II』, p. 85~103を参考すること。

⁵⁰ フェートマン, 2010, 「市民権の民主化」, ブルース・アッカーマン外作, ノルン福祉研究会翻訳, 2010, 『分配の再構成』, 分け合いの家, pp. 159~160

私は個人的に ‘大同団結’ や ‘皆が一つになって’ のような掛け声たちを好まない。また、韓国の多様な運動勢力、左翼、女性主義者たちが一つになることもできない。このような考え方は全体主義的に流れる傾向があることは勿論、論議の地平を狭小に作るためそのようになることを望んだこともない。そうであるにも関わらず、ベーシック・インカムは出来るだけ多く、一緒に主張する明らかな価値がある。私たちが一声で「反李明博」を叫ぶことよりは

ベーシック・インカム導入を叫び、その中で多様な論争、生産的な理論と運動、政治的闘いを作っていくことができれば、一番重要には女性と女性主義者たちが「その中心」にあったら、論議の地平は変わるだろう。

本当に‘事実’であるかどうかは分からないが、一方では以前より‘女性の権利’が高まったと言われている。それでも、女性たちが持っていると思われることは、実際に女性が持っているのではなく、その社会の支配的イデオロギー、特に該当の政府が持っている。現政府⁵¹は ‘4大川事業’⁵²に 23兆ウォンを使い、環境を破壊し、女性及び福祉予算を減縮している。このような状況の下でフェミニストたちがやるべきであることは、‘勢力’を確張することだけではなく、この時代に対する議題を作り個人の理論的、実践的力量を高めることだ。

しかし理論と政策は社会的運動が同伴されない時、政治的、実践的限界を持つ。ベーシック・インカムは運動である同時に、生存の権利のための社会的弱者たちの身振えである。もっと遠く行くため、もう少し一緒に行くため、ぱっと羽ばたく時である。

< 参照 >

- グァック・ノワン, 2009, 「皆に基本所得を!」, 社会代案フォーラム第3回シンポジウム資料集, 『ベーシック・インカムの社会代案的可能性』, 社会代案フォーラム, pp. 9~72
- カン・ナムフン, 2009a, 「あらゆる国民にベーシック・インカムを保障できる」, 『福祉動向』, 2009年 5月号, pp. 40~42
- カン・ナムフン, 2009b, 「ベーシック・インカムを取り囲んだ争点たち」, 2009. 6. 25. 第4回マックスコミュナルレ資料
- カン・イス, 2009, 『仕事・家族・ジェンダー』, ハンウル
- キム・キョソン, 2009, 「ベーシック・インカム導入のための探索的研究」, 『社会福祉策』, Vol 36, No 2, pp. 33~57
- キム・ミジョン, 2010, 「個人に支給されるベーシック・インカムと女性」, 毎日労働ニュース.

⁵¹ 李明博政府 (訳者注)

⁵² 2008年下半年から李明博政府が推進している韓国型ニューディール, 緑色ニューディール(??)事業 (訳者注)

- グアック・ノワン, 2009a, 「労働解放とベーシック・インカム運動」, 民主労総ベーシック・インカムシンポジウム, 2009. 12. 8, ベーシック・インカムネットワーク資料室
- グアック・ノワン2009b, 「代案地球化の経済的視空間-ドイツと韓国でベーシック・インカムと社会連帯所得意可能性を中心に」, 社会代案フォーラム第3回シンポジウム資料集, 『ベーシック・インカム制度の可能性』 会代案フォーラム p pp. 73~107
- グアック・ノワン2009c, 「パン・ぱレイスのユートピア的マックスズウィと 21世紀コミュニズム」, 会代案フォーラム第 3回シンポジウム資料集, 『ベーシック・インカム制度の社会代案的可能性』, 社会代案フォーラム, pp. 108~134
- ナンシーポールブレ2007, 『見えない胸』, 図書出版また一つの文化 ユン・ザヤング翻訳
- ラッセルサラザール2009, 『世界化の下人たち』 図書出版, ヨイヨン ムン・ヒョンよ翻訳
- ムン・ユギョン, 2009, 『大人指摘予算分析事例(2): 家庭暴力の社会的費用推定』, 韓国女性政策研究所
- ソ・ゾンフィ 2009, 「新しい分配制度に対する構想-ベーシック・インカムと社会的特別給与論争を中心に」, 韓国社会保障学会, 『社会保障研究』, 第24冊 1号, pp. 27~50
- ソン・ウンミ, 2003, 「不正規労働者に対する新しい社会的安全網: ベーシック・インカム」, 批判と代案のための社会福祉学会 2003年春季学術大会, pp. 273~306
- ソン・ウンミ, 2005, 「社会的貧困実態と政策評価」, 『進歩評論』第25号, 2005年秋号
- ソン・ウンミ, 2007, 「雇用保険改革の争点と見込み」, 参加連帯社会福祉委員会, 月刊『福祉洞香』 第99号, pp. 4~8
- 山森 亮 2010, 「Missing Women : The Forgotten Struggle of Single Mother for Basic Income.」, 『ベーシック・インカム国際学術大会資料集Ⅱ』, pp. 85~103
- イ・サンホン, 「労働と福祉: 普遍的権利としてのベーシック・インカム」
- キム・スヘン, シン・ジョンワン, 『資本主義以後の新しい社会』, ソウル大学校出版部,
- イ・スボン , 2010, 「ベーシック・インカムの普遍性と運動的意味」, 『2010 ベーシック・インカム国際学術大会資料集Ⅰ』, pp. 12~49
- イ・ジェギョン 2003, 『家族の名前で』, また一つの文化
- ジョンゴ・ミイラ, 2000, 「労働概念新たに表示: 感情労働の理解のための時事評論」, 『労働とフェミニズム』, 梨花女子大学出版部
- チョ・スンキョン 2009, 「関係の欠乏としての貧困と学問としての分け」, 『第11回ソウル国際映画祭国際学術会議資料集』
- ジェイン・プリドモン 2002, 『フェミニズム』, イバック・ヘギョング翻訳
- ズア・ヘギョング, 2009, ‘ベーシック・インカム討論文’ 進歩新党、未来想像研究所主催 ベーシック・インカム月例フォーラム 2009. 06. 12
- チェ・グァンウ, 2009a, 「ベーシック・インカムモデルの理解と韓国での導入可能性研究」, ハンシン大学校国際平和人権大学院平和研究専攻修士学位論文
- チェ・グァンウ, 2009c 「ベーシック・インカムで賃金労働社会革新を」,

- ベーシック・インカムネットワーク資料室
- チェ・グァンウ, 2010, 「韓国の福祉, 雇用現況とベーシック・インカム導入の必要性」, 『ベーシック・インカム国際学術大会資料集 I』, pp. 70~87
- フェートマン 2010, 「市民権の民主化」ノルン福祉研究集まり翻訳,
ホ・ラグム, 2009, 「面倒危機社会の哲学的談論」, 『哲学科現実』, 2009年冬号
通巻第83号, 哲学文化研究所,
- Alisa Mckay, 2005, The future of social security policy-Women, Work and a
citizen' Basic income, Routledge
- BIEN, 2009, 「BIENの手短な歴史」, ツェ・グァンウ翻訳. ベーシック・インカム
ネットワーク資料室, BIEN: Basic Income Earth Network 資料室.
- Coonz, Stephannie, 2006, “Historical perspectives on family”, Susan M. Ross, American
Families Past And Present: Social Perspectives On Transform
ations, Rutgers University Press
- Harding, Sandra, . 1991, “Strong Objectivity and Socially Situated Knowledge”, Whose Scie
nce? Whose Knowledge? Thinking from Women’ s Lives, Ithaca, N
Y: Cornell Univ. Press
- Julia Magdalena Elgarte, 2006, “Good for women? Advantages and risks of a basic income from
a gender perspective”, Paper presented at the ? BIEN Cong
ress University of Cape town 2-4 Novemder 2006.
- Julia Magdalena Elgarte, 2008, “Basic income and the gendered division of labour”,
Paper presented at the VII BIEN Congress Dublin, June
2008
- Nancy C. M. Hartsock. 1987. “The Feminist Standpoint”, Feminism and Methodology,
edited by Sandra Harding , Indiana Univ. Press.
- Silvia Federici, 2004, CALIBAN AND WITCH, AUTONOMEDIA
- Van Parijs, P. (2001a) “A basic income for all” “, in: Philippe Van Parijs, What’
’s
wrong with a free lunch?, Joshua Cohen and Joel Rogers.
(eds.), Boston: Beacon Press.
- Van Parijs, P. (2001b) “Real freedom, the market and the family. A reply to seve
n critics” Analyse und Kritik, 23, pp.106-131.
- キム・ジミ, 2009, “失業対策に発想の転換が必要だ”, 慶南新聞<慶南の時では>,
2009.08.17
- ツェ・グァンウ, 2009b, “ヨーロッパで南米, アジア, アフリカで拡散するベーシック・
インカム”, 『民衆の声』, 2009. 11. 06

2010年 3・8 “基本所得と女性”

キム・ヒョヌ（韓国性暴行相談所会員）

1. 序論

‘基本所得と女性’ 討論会で討論者として話し合うことができ、すごくうれしい。キム・ミジョンとボ・ファの発表はベーシック・インカムが女性にどのような良い影響をあたえることができるか、どうすることで可能か、どのような問題があるのかに対して基本的資料と移行方案をよく提示してくれた。発表に対するいくつかの質問と、個人的な意見、ベーシック・インカムが 60代女性、20代女性、50代男性の自殺率に及ぼすことができる肯定的な影響に対して紹介したい。

2. 性別分業の問題 -

ケアパラダイムでの転換は男性の身を変える事だ

ボ・ファの発表は ‘ベーシック・インカムと女性’ 論争で核心になっている ‘ベーシック・インカムが性別分業を固着化させるのか’ といった問題に答えている。既存に性別分業が ‘男性は生産、女性はケアといった構図で後者を低評価していたが、ボ・ファはケア労働を人間の生活に核心的で必須な労働でその価値を高めた。「そのように価値のある仕事を女性がすることがどうしてだめなのか」と言いながら、全社会のケアパラダイムでの転換を提案する。

キム・ミジョンの発表では、基本所得が与えられれば “男性たちが自分の時間を持つようになり養育と家事労働を女性たちにだけ押し付けることができなくなる” と予想している。またボ・ファは “女性と男性がケアと家事労働に同等に参加しない状態でベーシック・イン

カムだけでは消えにくいことも事実である。”と指摘している。もう少し進んで、男性と女性が社会労働とケア労働をどのように分るかに対して想像して見よう。

ケア労働は熟練労働で、感情労働である。女であればやらなければならないし、やっている内にうまくなる事だと思われたが、今の私たちの世代がお母さんの世代のようにケア労働をすることができるか？また、昔のようにしているか？絶対そうではない。ケア労働をすることは、体を変えることである。子供を抱いて、なだめて、食わせる、季節に合わせて布団洗濯をして、キムチの漬け込みをする。ケア労働/家事労働をしてみると肉体的、精神的な手間がたくさん入る。こんなことやって何を？、最小限で早く終わらせた方が良い。と思うようになる。なによりも、ケアの気持ち、愛と献身の気持ちがついている。その気持ちは新自由主義と対蹠点に立っている。その数多くのケア労働・家事労働をやって来たすべてのお母さんたち、女性たちの労働に言葉にすることができない敬意と驚きを持つようになるだけだ。一体どれぐらい愛情があれば、そのようなケア労働ができるのだろう。

男性たちにこのすべての労働を共有させるのはどれだけ難しい過程だろうか？3月6日梨花女子大学で開かれた3.8女性大会に或る‘パパ’の発言を聞いてみよう。

「私が毎日午後6時に子供たちを保育園から連れて来ているが、上司が嫌がっているため、いつも上司の顔色をうかがわなければならない。これは自分自身との戦いであり、この構造との戦いだと言っている」。

赤んぼうを連れて来ることさえ‘闘争’であることを思ってみれば、その他のケア労働は言う必要もないだろう。だけではなく、赤んぼうの面倒を見たくないため夜勤する男性たちもあるらしい。また、ユハンキンバリーの例でも確認できるように、男性たちの勤務時間が減ったとしても、彼らが家で家事労働を分担することとは別の問題である。子供達ともっと遊んでくれる程度の良い変化があったが、そうであっても彼らは他の資格証を取るなど自己開発に夢中になるだけである。家事労働が自己開発として認識されない以上、生活を営むために絶対的に必要な価値があることだと思われぬ以上男性の50%は家事労働をしないだろう。ベーシック・インカムが性別分業を壊すために重要な道具である点は同意できる。しかしケア労働の50%を男性と共有することを期待するのは「喫煙者にタバコをやめさせる」ことより難しいかも知れない。それは身を変える事で、もっと愛を要求することである。ただ、お金をたくさん儲けてくれることを愛だと思っているこの男性たちをどうやって変えることができるだろうか？

この主題は2009年UN女性地位委員会(CSW)でも論議されたことがある。特にHIV/AIDS問題においてケアの責任を男性と女性が同等に分担する問題が会議主題の一つであった。この会議はUNとUN会員国の国内政策に反映させることができる。そのため、ケア労働政策に対するロードマップを描くことができる来由ない機会だったと評価されている。⁵³このような会議が韓国でベーシック・インカムに対する論議が活性化される過程と、女/男がケア労働を共有す

⁵³ 社会開発の調査研究所(United Nations Research Institute for Social Development(UNRISD))最近これに関する研究書‘世界ケア政策を調和させること(Harmonizing Global Care Policy)’を刊した。研究物は次のサイトで見られる。http://www.unrisd.org/でpublications参考。

る新しい姿、性別分業が解体される文化がケア政策に対する国際的な論議でも鼓舞的な事例になることを期待している。

3. 貧困の恐怖がないためにきつい仕事を拒否する？

移住労働者の登場を考慮していない

キム・ミジョンとボ・ファは共通的にベーシック・インカムが与えられたら、女性たちは低賃金、長期間雇用条件を拒否/後退/離脱する可能性が高くなるはずだと思っている。ボ・ファの文書では女性たちが搾取職場に対するストライキをすれば、資本家たちは女性あるいは男性たちを引き込むためにもっと良い職場環境を作るはずだと主張し、その例として、韓国のK紡織の例をあげている。

しかし、“女性たちがベーシック・インカムをもらうことで貧困の恐怖なしに低賃金、長期間労働を拒否できるはずだ。”といった主張は移住労働者の存在に対する考慮が入っていない。主に低賃金、長期間条件の仕事は韓国人労働者ではなく、外国人労働者たちを誘引している。市場と資本が続いて韓国人—男性と女性、移住労働者—男性と女性を違うように扱い、後者に行くほど劣悪な労働条件を忍耐しなければならない環境を作っている。(また工場を海外に移転し、児童と10代達を雇っている)少なくとも韓国内ではこのように労働者たちを位階化し、劣悪な職場を永続させる構造自体を問題視すべきではないだろうか。すなわち、韓国人であっても、外国人であっても、韓国だけでは誰も奴隷のように働かない、あらゆる仕事で‘真面目な職場(decent job)’ができるように制度を作るべきではないだろうか？

ブラジルのエドラドロ・スプルリシが話したように、ベーシック・インカムがあらゆる国で施行されなければ、⁵⁴ ‘ベーシック・インカムのための移住’が増える可能性が高い。この問題に対する対策はあるだろうか？

民主労総の「あらゆる国民に即刻、ベーシック・インカムを支給しろ！」によれば5年以上居住した外国人に550万ウォンずつ手当を支給する構想がある。この構想に対して次のような質問をやってみよう。なぜ5年間待たなければならないのであるか？また、何とかして5年間韓国で居住すればベーシック・インカムが与えられるため、貧困な国家での移住が急増が予想されるが、に早いどのようによろしいか？それで基本所得で韓国の女性たちが大変な事をしなかったら良いだろう、それでは居住期間5年未満の外国人労働者たちが割でしように？という資本の連鎖ではなく“すべての職場をまともな職場で！”といったスロークンが付いて来なければならない。

⁵⁴ “ベーシック・インカムの支給額を各個人の生存のための基本的欲求を満たすほどに十分である必要があり、村、地方自治体、区、国家、大陸または地球に住んでいる皆に支給されなければならない。” エドアルド・スプルリシ、『基本所得国際学術大会皆に基本所得を!』、基本所得国際学術大会組織委員会、2010年1月27日ソガン大学校

4. 導入の長期見込みで北朝鮮が抜けている

キム・ミジョンの文書では韓国でベーシック・インカムは無条件的で即刻的な導入を主張しており、それによる財源の備え方や支給額まで詳しく算出している。しかし、文書で提示しているベーシック・インカムのポートフォリオ(想定案)は南韓だけを上程している。また、国防費を30%節減することには絶対的に同意する。しかし、これは南北関係が平和に維持でき、国民の不安が減少し国防費の切減に同意する過程が必要だろう。だが、今の進歩陣営がそういう力量を持っているのであるのか？ 今までも古い路線けんかで前に進めない状態ではないだろうか？ ベーシック・インカム構想案は漸次的に北朝鮮の人口を含む必要があるのではないだろうか？ または、ベーシック・インカムの段階的移行において南韓の貧困層と北朝鮮住民から始めるのはどうだろう。北朝鮮の市民たちが南韓市民たちの連帯意識によって心を開いてくれないだろうか？ そのため、統合過程が容易になるのではないだろうか？

また「環境税が生態危機がひどくなるほど増加するため、ベーシック・インカムの財政安定のために重要な役目を果たすことができるはず」と言ったが、悲しいことだが、環境を守り保存しようとする意志は感じられない。私たちがベーシック・インカムに対して、100%実現意志を持って推進して行べきであることと同じく、環境問題の良化に対しても、100%の実現意志を持って欲しい。「どうせ、環境汚染はもっとひどくなるはずで、環境税も増えるだろう。」といった前提から始めれば負けるしかない。基本所得も、環境の復旧も本当可能だと思ひ、計画して構想して、準備して欲しい。私たち中の疑心から取り除けす必要がある。

5. “ 革命と言う(のは)誰も殺さないでいかす事だ”

以上で二入の発表者とともに、もっと論議したい事案であり、今からは私がベーシック・インカムを支持するようになったきっかけを述べたい。

“働かない者よ食えるな、資本家よ食へからず、x x x, x x x、シネ！あらゆる悪口で対抗する（♪♪）

5, 6年前、労働者集会に行けば、たまにひげのある民衆歌手がこのような歌を歌った。資本家に対する嫌悪と怒りがいっぱい入っていた。しかし、この歌は今青年フリーターに嫌悪の矢になって帰って来る。食事することも嫌がる気色が見える。しかし、ベーシック・インカムは“働かなくても食べる資格がある”と言っている。あなたが資本家でも、労働者でも、子供であっても、年寄であっても、誰でも間に食事する資格がある！、生きる資格があると言ってくれる！これが基本所得が良い一番目の理由である。

“実は革命とは誰も殺さずに生かせる事だ。”⁵⁵とノ・シンが言った。今までの左派運動が“～～するな!、政権の退陣、反対”だけを叫んで来た。“～～を実現させよう!、～～を生かせよう!”と言うための、想像力も不足であったし、努力をやっていたとも思ったことがない。(女性運動も含み) 韓国の自殺率がこんなに高いのにもかかわらず、進歩陣営は支持されていない。人々は争う前にあきらめてしまう。世界の半分は飢えているのにもかかわらず、なんと無く食べ物を残す。誰も殺さずに、ノ・シンの言葉通りに「革命をしなければならぬ時だ。」ベーシック・インカムは私を世界化を主張するエドアルド・スプルリシの主張に深く同感し、ベーシック・インカムのために何であってもやりたい二番目理由だ。

ボ・ファが発表を準備するベーシック・インカムの“普遍性”に対する不便さを語ったことがある。フェミニズムが‘差’の‘認定’を主張して来たからためであろう。ボ・ファは発表で“個人的に‘大同団結’や‘私たち皆一つになって’のような掛け声たちを好ではない。”と言った。私は逆にベーシック・インカムが今までの‘部門運動’が争取しようと思った目標、すなわち、皆が‘人間’といった主張の(部分的な)実現だと思う。女性運動は女性も人間だと主張し、障害者運動は障害者も人だと叫び、児童権利運動では子供も人権があると主張した。数多くの大衆がベーシック・インカムを支持し、それにそった変化を受け入れることが人と人々の間での‘大同団結’だと思う。ベーシック・インカムは、あなたのアイデンティティが何であっても、尊重を受ける人間ということを物質的に実現させてくれる。

また基本所得は‘名付けて烙印を押さない。’例えば‘障害者手当’の場合、その手当てはその個人を‘障害者’で名付けて、障害者のアイデンティティを付与する。‘未婚母補助金’だったら、その個人は‘子供を生んだ人’ではなく‘未婚母’といったアイデンティティ強いれる。これは‘烙印’に近い。特に‘失業者手当’がそのような性格を持つ。ベーシック・インカムは“あなたの性別、年、身体、職業など、あなたが何でもあなたはあらゆる権利を持った一人の完全な人だ”と宣言する。ベーシック・インカムではこれ以上私がどんな面で“非障害大人男性正規職”ではないのか、どれだけ貧困で大変でそのために福祉を受ける必要があることを証明する必要がない。⁵⁶あなたは人間であればそれで良いのだ。それがすべてだ。ベーシック・インカムが良い三番目の理由だ。

人を挫折させ、いじめることは予測不可能性と不安定性だ。それが非正規職の心理学であることを経験で、理論でよく知っている。今、韓国社会は(公務員抜いて?)豊かであれば豊かであるほど、貧困であれば貧困であるほど、不安定さと恐ろしさでいっぱいである。人間は現在自分の状態ではなく、未来の展望を自分のアイデンティティにする。正規職と非正規職の最大の違いは未来を企画できるか、出来ないかの違いである。正規職の仕事が減るほど、彼らは自分の仕事を守らなければならなくなる。非正規職たちの見えない敵意から自分を防御しなければならない。非正規職は無理やりに希望を作ったりもするが、構造の壁の

⁵⁵ 人間万事 塞翁が馬』, “ノ・シンを眺めながら”, イ・ヨンヒ, ポムウ社, 1991年

⁵⁶ ラジオで生活が苦しくておちこち走り回って数十種の書類を準備したが、主人のボンコツの車一つのせいで次上位階層支援がもらう事ができなくなったある女性の事情は官僚主義に対する怒りを起こした。

前で挫折してしまう。それが自殺率世界 1 位の原因である。⁵⁷この人々を生かせることはできるだろうか？ どのような方法で、私たちが生計に対する恐れなしに未来を計画して心理的・物質的安定の中で現在の幸せを捜すことができるだろうか？

6. ベーシック・インカムが支給されれば

1) 自殺率世界1位；

女性年寄りに年間600万ウォンのベーシック・インカムが支給されれば？

女性年寄りを先に考えて見よう。現在韓国の老人自殺率は世界1位である。⁵⁸年寄りたちにベーシック・インカムが支給されれば彼らは貧困の袋小路で自殺しないだろう。特に女性年寄りたちは子たちの顔色を伺いながら、腰の痛みと戦いながら、願わない孫たちのお世話をするひどい目にならないだろう。

このような話を聞いた事がある。或る障害者が家から独立したいのに、親と家族たちが反対する。その理由は“その人の一人暮らしが心配になって”などではなく障害者手当のためだとする。その話を聞いて胸が痛かった。それでもそれが懦弱な人間の断面であったら、“年寄りたちが高いベーシック・インカムをもらおう”とすれば、子たちがお互いに扶養しようとしませんか？ また、お婆さんはベーシック・インカムがあるため彼女の希望通りに選択し決定することができる。そのため年寄りの威厳を取り戻すことができるはずである。

⁵⁹

2) 女性自殺率1位；

20代女性に年間 500万ウォンのベーシック・インカムが支給されれば？⁶⁰

20代女性の自殺率が他の世代よりもっと高いのではないが、私は 20代女性たちが今の現実を耐えていることは、性売買というセーフティー・ネットではない セーフティー・ネットがあるためだと推測する。何年前、政府統計で約 26万名の女性が性売買で生計を解決している。⁶¹女性団体ではこの数字は氷山の一部分だと言われる。20代女性にとって性はお金と交換できる唯一の資源だ。20代女性たちに ベーシック・インカムが与えられれば、彼女たちも他の選択をすることができるのではないだろうか？ (名品の所有が自我と同一視される消費文化の下でベーシック・インカムはそのような欲求を充足させるためには小さい可能性もある。しかし、公共住宅で住居が提供され、またベーシック・インカムがあれば生計型性売買は減はずだと予想したい)

⁵⁷ 非正規職の割合が高いほど所得不平等が深くなってこれは自殺率上昇につながる悪循環構造を成すことで現われた。“不正規職-ジニ係数-自殺率 ‘死の三角掛けがね’” ハンギョレ, 2009. 10. 11.

⁵⁸ “韓国の老人自殺率世界1位” 毎日経済イコノミ, 2009. 5. 27

⁵⁹ 今老人の威厳を取り戻すことは未来の私の威厳を保障する事だ。そして彼女がもし一人で過ごす事にしたら公共住宅(無償住宅)が必要だ。それで基本所得が住宅の公共化と共に行くべきだ。

⁶⁰ “女性自殺率 OECD 国家中最高”, 連合ニュース, 2009. 4. 6

⁶¹ “性売買法 5年 ‘2009 現住所’ 歓楽街を押すともっと広くもっと深く掘り下げた ‘赤い誘惑’”, 文化日報, 2009. 9. 21

女性だけではない。“現在の20代は所得が高い順番で、安全性が高い順順番に世代内で競争が起こるようになる。お金以外の価値たちは、社会が安定されたから動き始めるためだ。……(韓国社会は)敗者復活戦のような補完装置がほとんどない。⁶²もし、20代にベーシック・インカムが与えられたら、創業が失敗してもまた挑戦することができる敗者復活戦があるわけで、‘やっぱり公務員試験’ではなく、やりたい仕事を積極的に探すことができる余裕、与件が作られるだろう。どれだけの20代たちが本当の私がしたい事’を探すまでに、どれだけの彷徨と試行錯誤をしているかをみて、経験して、目撃し、それが生計に対する不安さに起因するところが大きすぎるため、そのような意味でベーシック・インカムはなんでも試みて見ることが出来る‘信じる隅’，社会的親になれるはずだと思う。

3) 40代, 50代男性自殺率:

生計扶養の重い荷物

40, 50代の韓国男性の自殺率は同じ年齢代女性より 2.3倍~3.2倍高い。⁶³これは、IMF以後深化された現象である。経済的難しさのため、自殺衝動を経験した人の内、40代男性(52.8%)と 50代男性(56.1%)が一番多いと言われる。ベーシック・インカムは男性にも望ましい。ベーシック・インカムは彼らの生計扶養者としてのその重い荷物からある程度開放してくれるはずである。お父さんたちよ、重い荷物を降ろそう！ベーシック・インカムは中年男性たちにも望ましい。

7. 一手には TOEFLの本, 一手にはベーシック・インカムを！

<88万ウォン世代> 本の表紙には「20代よ、TOEFLの本 を閉じて、バリケドをつくり石を持ち上げろ！」と書いている。たぶん 80年代学生運動をしたこの本の編集者の一言だと思う。しかし 2010年、今大学生たちに学生たちに「TOEFLの本を閉じて、石を持ち上げろ」と言う場面を想像してみた。たぶん“石て何ですか？”、または“バリケド？どこか工事でもやりますか？”と言うはずである。悲しいことだが、「石」と「バリケド」は私たちが一運動圏たちが一いまだにも、1980年度に暮している過去型人間であることを表す象徴物である。このままでは私たちがバリケドの外で押し寄せるか恐ろしい。

私たちがベーシック・インカムを説得させようとする女性たちを見ていよう。一部の夫人たちと財界の奥様たち10%を抜けば、私たちは90%の女性たちを説得することができる。彼女たちは誰であろうか？赤いストッキングにミニスカートをはいてインターネットを通じて集会に‘遊びに行く’ ‘三国カフェ⁶⁴’ (ソウルドレッサー・サンコ・ファジャンバル)のお姉さ

⁶² 『88万ウォン世代』, ウ・ソクフン, ソウル, レデーアング, 2007. p. 99

⁶³ “‘暮らしが苦痛’ 40~50代男性自殺急増”, スオン日報, 2009. 6. 10, この記事は 2009年 6月頃期も家族女性研究員の ‘経済危機の下で 40-50代男性の自殺と対応方案’ 研究を引用している。

⁶⁴ 韓国の有名なインターネット女性コミュニティ (役者注)

んたちだ。彼女たちはハイヒールにホットパンツ姿で「私学んだ女よ!」と旗の下集まる。彼女たちは（私たちのように汗だらだら流しながら戦闘警察から逃げ出さずに）マネキン遊びプルレシモブをする。うちのお姉さんたちと遊ぶためには石やバリケドが必要なのではなく、一手にはベーシック・インカム、他の一手には少なくとも最新流行の化粧品くらいは持っていなければならない。まだ学生である私は、「一手には TOEFLの本, 一手にはベーシック・インカム」という石を持ちたい。

“国会, 2025年全面的なベーシック・インカム実施決定” といったニュースに出ることを期待している。(アブラカダブラ!)

< 討論文 >

ベーシック・インカムに対する ‘プラス’の論議を期待する

キム・ヒョヌ(進歩新党政策委員)

ベーシック・インカムの構想は普遍的な給与提供を通じた労働力の脱商品化と市場機材の日程な認定(貨幣購買力)を土台にする社会主義プロジェクトだ。もちろん公共部門の拡大や他の福祉機材の拡充を排除しない。また‘実現’(過小消費の解決)の問題に対する解法側面も

あるため、複雑な、だが生産的論点を抱いている企画である。

ベーシック・インカムが性平等に寄与できる論旨は非常に意味があり、女性運動がベーシック・インカムを自分の主要要求とすることも非常に歓迎できることである。キム・ミジョン副院長が発表文でフレーザーを引用しベーシック・インカムが普遍的生計扶養者モデルとケア提供者同格モデルをともに相手化できる可能性を言及したことや、ポ・ファ政策委員が公的/私的領域を貫通するケア労働の共同倫理を話した部分に同感する。ベーシック・インカムで家事労働に対する正当な価値を付与することのみならず、女性/男性が獲得する仕事の機会と質を上昇させるようになるだろう。そのため、ベーシック・インカムが性別労働分業を固着化させる可能性がある。といった憂慮はむしろケア労働の価値と共有方式に対する社会的論議を触発させるきっかけにすることもできるだろう

ベーシック・インカムの現実性や導入方案に対しては論難があり得るが、むしろベーシック・インカムを現在一番現実性ある政治的研究プログラムとして認識し一歩ずつ発展させ、他の提案を付け加えなければならぬだろう（‘プラス’の討論）。ベーシック・インカムは既存の社会安全網が解決できない非正規脆弱集団に有力な支援手段にもなりえるし、結果的に集団の個別的交渉力を育てることができるだろう。またベーシック・インカムは労働時間短縮及び市場からの自律化を可能にし文化-生態社会への転換に大きい促進剤にも作用する。

現在論議されるベーシック・インカムの核心は‘条件ない’そして‘十分な’給与の提供である。詳細的方法の中で論点になることは財源、既存社会保制度の統廃合、段階的導入あるいは集団別差等給与、最低賃金制との関係、イデオロギー的論難などが見える。民主労総の案(カング・ナムフン外, 2009)はこのような側面たちを大部分考慮した出発モデルになることができると思う。ただ環境税(炭素税)を基本所得の財源で含む問題は論議が必要な部分だと思う。ベーシック・インカムが生態社会転換に寄与できることは明らかだが、環境税は環境と関連がある具体的用処の存在する必要があるためである。

今後のベーシック・インカムの現実化のために社会運動内公論化が重要だが特に組合労働部門の説得を悩む必要があると思われる。ヨーロッパの事例でも失業運動や女性運動でベーシック・インカムに対する支持が高いが、中央産別交渉と男性家族賃金に慣れているレーバユニオンの支持は微弱な経験がある。要するに階級連帯を伴わなくては、ベーシック・インカム運動が十分な支持を受けられない。足踏みにとどまってしまった社会連帯戦略の教訓を振り返る必要がある。

< 討論文 >

ベーシック・インカムと女性

チュ・ウンフイ（民主労働党 政策研究員、家庭学 博士）

1. ベーシック・インカムに対する関心増加

ベーシック・インカムに対する関心が徐々に増加している。ベーシック・インカムに対する専門研究者もあり、討論会とセミナーもよく開かれている。ベーシック・インカムの主唱者であるブラジルの上院議員スプルリシは今年韓国を訪問して、ベーシック・インカムに対して講演をした事もある。スプルリシは**民主労働党**⁶⁵にも二回も訪れてベーシック・インカム概念に対して説明してくれた。スプルリシの訪問がベーシック・インカム論議を拡散させるために或る程度寄与したと思う。ベーシック・インカム概念が持つ最大長所は単純さ、明らかさだ。したがって、大衆もベーシック・インカム概念を理解しやすい。そのため、適当な、巨大政策談論がない論争空間をこれから相当期間、ベーシック・インカムが満たすことを予想している。こんな面でベーシック・インカムが女性に及ぼす影響を研究している二人の研究内容は非常に意味あると思う。お二人の研究内容に対して大体同意する。

2. 基本所得は性別分業固着化解消させること

発表に出ているように、私たちの関心事は ◇ ベーシック・インカムが性平等な社会を作るために寄与するか？ ◇ ベーシック・インカムが女性の公平な機会と平等な結果を齎せるために重要な役目を果たすことができるか？ ◇ 長い間根深く残った性別労働分業を克服するためにベーシック・インカムはどのような寄与ができるか？ ◇ 社会、職場、家庭で性別が違うという理由で差別されている女性にベーシック・インカムはどんな影響を及ぼすことができるか。ということだ。

このなかにも、「ベーシック・インカムが性別労働分業にどのような影響を及ぼすことができるだろう」が一番重要な理論的な争点だと思う。一部のベーシック・インカム反対者たちは基本所得制度が性分業を固着させる可能性があるかと憂慮しているようだ。ベーシック・インカム制度が施行されたら、女性たちは仕事をやめて、家庭に帰って家事労働に専念するようになり、そのため既存の性別労働分業がむしろ固着化するということだ。結論を先に言うと、ベーシック・インカム性分業を固着させるはずはない。

ベーシック・インカムが性別労働を固着化させるはずだという論議では、労働者たちが純然に賃金のために働くといった前提が入っている。すなわち、生計さえ解決されれば、その次からは労働者たちが働かないと前提しているのだ。しかしこのような前提は理論的に問題がある。このような、いわゆる“経済人”といった前提は典型的な保守派の視覚である。誰も認めているように、私たちが労働に参加する理由が必ず生計費を解決するためではないだろう。自分が持っている能力や才能を発揮する空間が職場でそうであるため、職場を通おうとする同期も大きいと思わなければならない。

また、この前提は私たちが現実で見える事実とも違うと思う。例えば、或る女性労働者がベーシック・インカムとして月40万ウォンをもらうとしても、その金額のために職場をやめて家で家事労働にあらゆるエネルギーを消耗するとは思にくい。1ヶ月に平均40万ウォンが保障されることは、人が人として生きるために最小限の保障であるだけで、自我実現や自己満足とは別のはなしだ。人が仕事をしたい欲望は当たり前のことで、誰も仕事をして儲けた労

⁶⁵ 現在の統合進歩党

(訳者注)

動賃金でもう少し優れた生活を維持することを希望する。皆さんの中で40万ウォンが保障されるとして、今すぐ仕事をやめる人が何どのくらいあるか聞き返したい。結局、ベーシック・インカムが性別労働分業を固着させるのではないだろう。

一方で、ベーシック・インカムが導入されれば、労働者と事業主の間での力関係に変化が生じる。資本主義の創始期にメンドビルが“密蜂の寓話”で話したように、労働者たちの生計費がある程度解決されれば、事業主たちは労働者たちを扱うのが気難しくなる。例えば、韓国の大体の女性労働者たちは最低生計費水準の賃金のみをもらいながら、食堂、ケア労働をしている。彼女たちは最低生計費水準の賃金のみをもらいながらもいつ切られるかといらいらして不安に働く。もしベーシック・インカムが支給されたら、いつもいらいらしていた不安な状態はよほど和らぐはずで、非正規職労働者たちはずっと党党に事業主を対することができるようになるだろう。事業主と従業員の間での力関係で従業員の方が優勢になれるということだ。

ベーシック・インカムで力関係に変化が生じれば、事業主たちはこれ以上従業員を非正規職に縛りつけなくなり、したがってもっと優れた待遇をしてくれる方に状況が変わって行くだろう。現在、女性労働者たちの大部分が非正規職で、そのため賃金も男性正規職労働者たちに比べて3分の1水準しかもっていない。だからベーシック・インカムの最大受患者は低賃金、非正規職労働者たちであるだろう。まさに女性たちが低賃金非正規職の職場を満たしているため、ベーシック・インカムは女性労働者たちにいろいろと有利に作用するはずだと思う。

一つ付け加えすと、ベーシック・インカムは労働時間を縮めさせることができる。なぜかとすれば、ベーシック・インカムが保障されたら労働者たちは生計のために、むりやりに長期間労働をしないだろう。現在韓国はOECD国家の中で最長労働時間を現わしている。労働時間が減れば当然に職場は増えるだろう。

整理していうと、ベーシック・インカムの最大効果は事業主と労働者たちの間の力関係の変化である。これが、結局女性非正規職労働者たちに恵沢をもたらせてくれるだろう。

3. 基本所得論議

民主労働党は2009年“政策堂大会”を準備しながら、ベーシック・インカムを積極的に検討した。2009年4月“ベーシック・インカムの韓国的導入は妥当であるか? : 進歩陣営の集権の戦略の可能性”という主題でシンポジウムを開催したこともあり、政策党大会当日、議題別シンポジウムで単一 이슈で別途ブースを用意して討論会を進行した。

ベーシック・インカムは政策党大会では政策方針で決められなかったが、主旨と目的に必要な要素があると判断され制度設計などで、ずっと検討、補完すると決定した。